婦人運動

11月號

職業婦人社發行

第7卷 第9號

古今東西美術史に映ゆる名品五千點を集む

世界美術全集

第二回募集締切迫る

本全集出でて世界美術の大殿堂は初めて萬人に開け
古今の大美術家は地上に立つて大衆に接す。

讀む全集より
見る全集へ！

壹圓の會費で
何時とはなしに家庭美術館が建つ！

普及本
本綴略装美本

装飾本
本綴擬革装背金
天金最上製函入

實物見本
全國各書店にあり

造本術の最高技術を動員して出版界類例なき廉價本
本書出でて美術書高價の觀念は消失さる。

豫約規定

一、頒布方法　全三十六卷　豫約會員のみに頒ち一部賣りは絶對にせず、

一、四六倍判　精巧なる原色版及び網目寫眞版等約百四十圖。解説約八十頁。

一、装　幀　甲乙丙の三種

甲　普及本　本綴略装美本

乙　装飾本　本綴擬革装背金天金上製函入

丙　特別装　プレート挟入

一、申込金　甲壹圓　乙壹圓五拾錢　丙貳圓

申込金は最終の會費に充つる故、第一回會費は別に御拂込を乞ふ。一時拂は申込金を要せず。

(中途解約者には申込金返戻せず)

一、會費　甲壹圓　乙壹圓五拾錢　丙貳圓

一時拂　甲卅二圓乙四十八圓丙六十四圓。

一、送　料　毎卷拾八錢(東京市内は六錢)

一、拂込方法　申込金及び第一回會費は豫約〆切前に、毎卷會費はその發行十日前に振替御送金を乞ふ。

一、發行期　第一回配本、十一月十日。以下順次月一回以上發行、昭和四年末完結。

東京神田駿河臺下
株式會社
平凡社
電話神田　一六四六番　三六二八番　三四一九番
振替口座東京二九六三九番

第七巻第九號

婦人運動

（十一月號目次）

消費組合は單なる緊縮道ではない

井上藏相の緊縮政策に呼應して婦人團體が緊縮へ緊張して來たことは實に著しい傾向であります。殊に大阪朝日新聞が後援して全日本婦人經濟大會を開催してから、各府下の聯合婦人會が擧つて緊縮申合せ、生活を合理的にしませう、と熱心な協議を重ねてゐるのであります。

こゝに見逃がすことの出來ないのは、これらの諸會合を通じて、消費組合の研究及び實行といふことが多年婦人團體に於て叫ばれ、とり揚げられてゐるにも拘らず、その消費組合たるや、まことに甚く履きちがへられ歪められた消費組合であつた、ことであります。

消費組合は決して、單なる緊縮への道ではありません。消費組合が日常の生活物資を直接に生産者から消費者へ取次ぐ廉賣機關だと早合點されるほど致命的な間違ひはありません。今から九十年ほど前にイギリスの片田舍ロッチデールで、貧しいフランネル職工二十八人の協力に依つて初めて消費組合が試みられてから、全世界的な發展を遂げた今日に至るまで、消費組合とは、

消費者の必要を充たすために物資を生産し、又賣ること、

賣價はつねに市場並みのこと、

普通に問屋、小賣人に儲けられる分だけ組各の積立金にすること、

の三つの元則を嚴守して來ました。

今日の資本主義社會で、ものがわれ／＼の必要のために生産されないで、それを生産して金子に代へるため、儲けるために生産されてゐるのであることは、藥が、發見され調合されて澤山にあるにも拘らず、多くの貧乏人は購ひ求める金子がないためにみす／＼可愛いわが兒を見殺し、自分も死んで

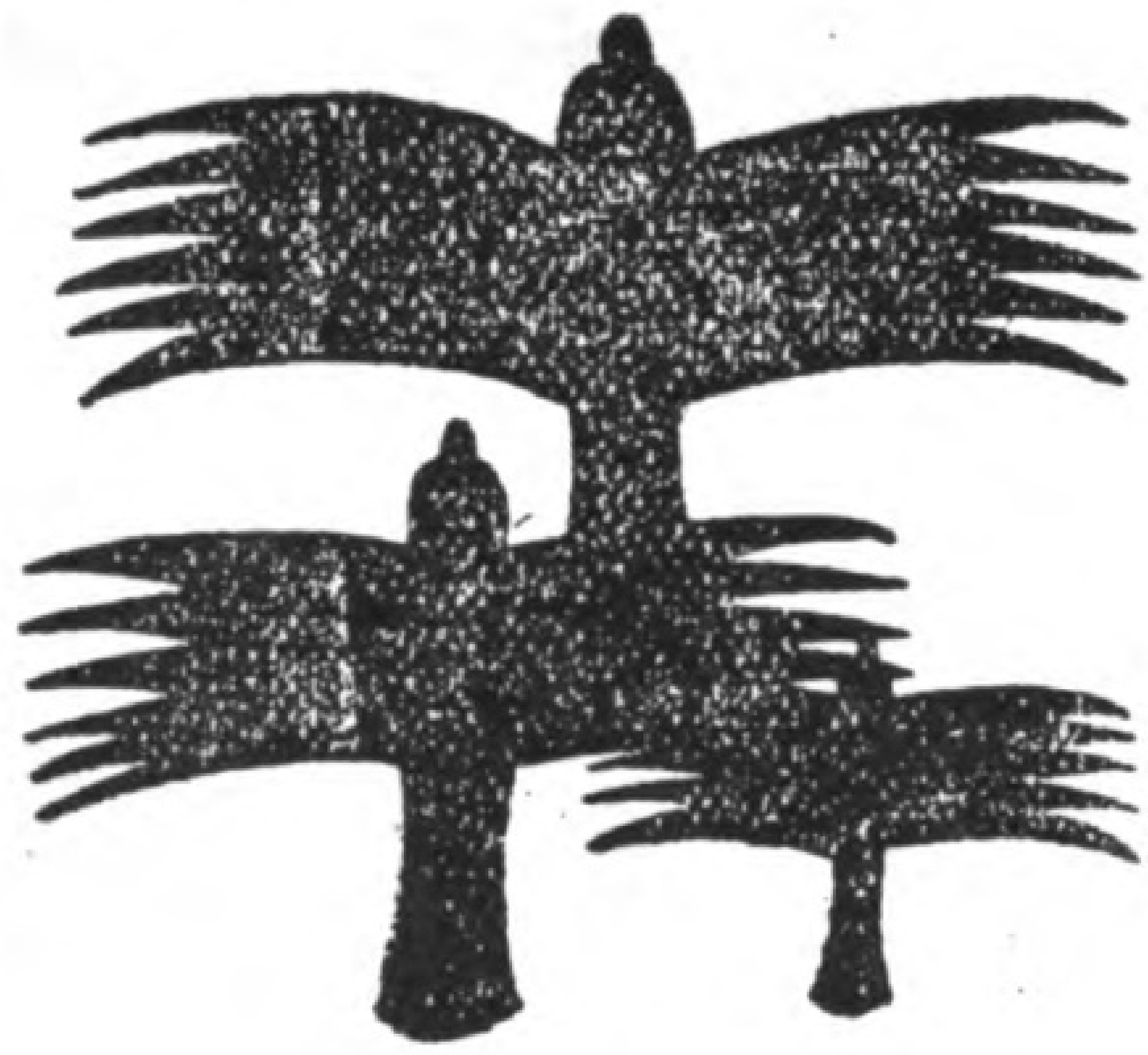
行つてゐる一事に依つても判明りませう。食物でも、衣服類でも、玩具でも、書籍でも、家でも、花園でも、米でも皆同じです。有り餘るものが有つて腐つても金子のない者には手が屆きません。この世の中で行はれてゐるムダの中の最大のムダであります。

消費組合はこのムダを排除して世の中を押しなべて生産と消費の需要供給關係を均等にしやうとする精神に立つのであつて、消費者としての婦人が、この大きな資本主義社會の根底に潛むムダに心づかずして、愛を說き、生活の合理化を叫んだところで靴をへだてて掻くやうなものだと云はねばなりません。

消費組合網を以て全社會が包まれたとき、初めてわれ〳〵はものの値段を心配することなく必要なものを手に入れることが出來るのですが、過度時代の今日は、消費組合が市場なみの値段を嚴守して組合員共同の積立金を生み出だすことにつとめます。

個人としての私たちが五錢拾錢安いものが買へても、その金子が目にみえてどれ丈けの助けになるのでもないと同時に、個人としての問屋や卸屋や小賣人に儲けられた金子は、それきり奪はれ損になりますが、それだけの分を組合に積立て丶更に仕入れを有利にするための資本にあて、組合の宣傳費にし、又、組合員の教育や遊樂費にあてたり、共同利用品——書籍とか、運動具とか、ミシンとか、浴場とか、療養所とか、別莊とか、學校とか——を手に入れる資金にするのもよろしい。現に消費組合の發達してゐる所では國庫の支出や有志の寄附にまたず組合の積立金にてどし〳〵斯ういふものを實現してゐるのであります。

婦人の協力に依つて消費組合の健實な發展を希ふ私は、各婦人團體がもつと消費組合への正しい理解を求める態度に出られんことを切望してやみません。（奥むめお）



婦人の緊縮運動

平塚らいてう

歴代の内閣は婦人の存在を、ほとんど無視し通して來ました。どの政府も婦人の生活など國政とは何の關係もないものと見て來ました。婦人側から偶何等かの要求が提出されても、出來るだけ否定的な、少くとも回避的、消極的態度をとるのが慣例でありました。出來ることなら、いつまでも婦人を國民として取扱ひたくない、政治の圏外に置きたい、といふのがその疑ひない本心なのでしたから。

それだのに現内閣は大に違つてゐます。例の緊縮政策の看板をかかげると共に、向ふからわたくし共婦人に呼びかけ、働きかけて來たのですから、まさに空前といふべきです。

内閣の諸公は口をそろへて、國家經濟建て直しのための公私經濟の緊縮節約の遂行には、各家庭の消極經濟の主さい者である婦人の協力が必要である、これなしには政府もその政策の實現、徹底は望み難い、とおつしやる。さうして内務、大藏兩省が企圖するいはゆる公私經濟緊縮運動に、あるひは文部省が計畫するいはゆる敎化總動員の運動に全國婦人團體の參加を要望して來たのです。

これは確に從來よりも賢明な、そして進歩的な婦人對策であるに相違ありません。なぜなら、婦人を無視し、べつ視し除外する代りに、進んで彼女等を認め、おだて、さうして利用しようといふのですから。

のみならずこの運動が本來消費經濟運動である限り、家庭

における消費生活の事實上の擔當者である婦人に着眼し、彼女等の理解と支持を得、その援助・協力を求めるといふことは單に道理の上からも當然過ぎるほど當然なことなのですから。

ところで婦人に對する政府のこの空前の呼びかけに對し、婦人側はどういふ態度に出たか？

婦人の理解と、その支持、協力なしには今日政府もその國策の實現を期し難いことを悟り、婦人をその眼中に置くやうになつたといふことは、とにかく婦人にとつて好ましいことに相違ない。これを絶好の機會として、この際大に消費者としての婦人の社會的、國家的の職能を發揮し、その任務を果しませう。さうして婦人の力を十二分に示し、婦人もまた確に國民の一員であることを事實においてはつきりと認識させませう……

これが今回政府の要望に應じたあるひは自發的にさへ起つて、政府の運動に參加した婦人側の一應の心であつたらうとわたくしは思ひます。しかしこれだけで今日の婦人が――日清日露兩役當時の愛國婦人會の連中ならともかく――滿足してゐるでせうか？　わたくしにはさうは思へない。政府は婦人を國民なみに見、國民なみに取扱ひ、その政策を支持させ宣傳させ、實行させ、さうしてお國のお役に立てようといふのである限り、わたくしたちにも國民としての權利を――すなはち參政權を與へよといふのがむしろ當然に出てくる叫びでなければならないでせう。

「婦人よ、たゞのお手傳になるなかれ、單に利用さるゝに止まるなかれ。」

とは今日婦選運動者が一般婦人へ――否各婦人團體への警告でありますが、しかし特に婦選團體のこの叫びをきくまでもなく、今回の婦人節約運動の必然の副産物としての、乃至はその延長、徹底としての婦選獲得の輿望は、今日この運動に參加しつゝある婦人團體中の可なり反動主義的色彩の濃厚なものゝ中にさへ今や暗默の間に動きつゝあるものではないのでせうか。

それにしても不審に堪へないのは、先頃全日本婦人經濟大會において、節約運動を徹底せしめ、その目的を全うするための婦選の要求――しかも公民權だけの――がどんな理由からか否決に終つた事です。同じ席上で可決された諸提案の實現のためにも婦選は必要とされてゐるのは明かであるし、し

かしなほそれよりもかうして全日本婦人が國家經濟建直しといふ目的のもとで、各自の私經濟を出來るだけ節約してゐるのであるに拘らず、國の經濟にも、市町村の經濟にも一切口だしが出來ないといふこと、それ自身が大きな不合理だとは考へないのでせうか。もし婦人たちが國家のためといふのでお臺所の節約を正直に行つて、少々の榮養不良を忍んでまでも貯蓄に懸命になつてゐる時、他方で、國のばく大な金が軍備に、重要でもない土木工事に、やくざ鐵道の買收に、ぼろ銀行の救濟に費消されてゐるとしたら、あるひは又他方で政黨や政治家が選擧運動費に待合の遊興費に數千萬圓を浪費してゐるとしたら、會社は會社で相變らずたこ配當をつゞけてゐるとしたら、しかもその時婦人はなほ婦人なるが故に默視の外ないとしたら、どうでせう！

　わたくしはこの際、たゞ二三專門の婦選團體のみに一任することなく、緊縮運動に參加した全國各婦人團體はもちろん緊縮政策の結果としての賃銀の低下、解雇、失業等によつて多大の犧牲を——節約以上の節約を——國家のためといふ名目の下に否應なしに堪へさせられてゐる無產勞働階級の婦人と共に一せいに起つて、消費經濟擔當者の立場から婦選を要求して然るべき時だと思ひます。

　婦選團體が、婦人を、その政策の遂行に利用しようとする現內閣の婦人對策を、更に、逆用し、緊縮運動を婦選運動に結びつけ、これを婦選獲得の具としようとする戰術に出でたことは、婦選團體としてあまりに當然の戰術で、何の不思議もないわけです。

　しかしわたくしは婦人の緊縮運動と婦選のことを論ずるのがこの稿の目的ではなかつたのです。婦選のためにあまりに紙數をさき過ぎたやうです。

　さて、緊縮運動の結果、その副產物として婦選を收獲しなければならないことは、今述べた通りもちろんのことではありますが、しかしこれだけで足りるでせうか？

「たゞのお手傳ひに終るなかれ、單に利用さるゝに止まるなかれ」とはその報償として公民權や參政權の獲得だけを意味するものでもありますまい。各婦人團體のあの節約運動を婦人がたゞ單に政府の政策の手先となつただけの一時的のから騷ぎに終らしめず、又現に今見るが如き、昔ながらの消極的な、個別的ないはゆる儉約貯蓄の獎勵だけに終らしめず偶現內閣によつて婦人に働きかけられ、さうして喚起された一

種の經濟運動を、眞に絶好の機會として家庭婦人がこゝに消費者としての自分の社會的地位やその任務を悟ると共に、今日のこの資本主義下における消費者の立場の不利、不合理に目ざめ、各自の家庭における消費生活の改善、合理化又そのための組織化へといふ方向にこの運動を指導し、發展せしめることが出來るならば、その收獲は、參政權の獲得と相まつて、否それ以上にあるひは無限の永續性、發展性ある大きなものかも知れません。

かういふ豫望や、期待を心に藏して、今日の各婦人團體によつて行はれつゝある緊縮運動を見るとき、その内容に、方法に、あるひはその方向にまことに多少不滿を感ぜずにはゐられません。

たとへばガス、電燈、水道、燃料等を節約しませう、禁酒禁煙を奬勵しませう、内國品を使ひませう、着物は銘仙程度にしませう、いえ綿服着用といふ事にいたしませう、お進物はお互にやめませう、お茶代も置きますまい、諸禮も節約しませう、圓タクはやめて電車に乘りませう、出來るだけ廢物を利用しませう、そして少しでも多く貯金しませう、愛國貯金にもはいりませう等、々、々、といふ種類の緊縮をわたくしは何も進んで反對するものではありません。のみならず、浪費よりも勤儉節約はいつだつていゝに相違なく、それだのに資本主義では浪費の誘惑の中に置かれてゐるのですから節約の心がけは不斷に必要なのですし、殊に常習的浪費者である有産階級や、見榮やお付合で浪費を余儀なくしてゐる中産階級の奥樣たちにはこの際かうした宣傳は必要でせうし、又實際廢物利用などは有閑婦人のおなぐさみとしては時節柄格好のものに相違ありませんから。

しかしこの種の的極的手段による保守的な、個別的な緊縮はその行はれる範圍もはたらきもほゞ知れたものです。無産階級の婦人はそんなことならわたくしたちはもう日頃から實行させられてゐることで、これ以上の余地はないといふのは本當です。

しかし緊縮の道はもつと他にもあるはずで、わたくしたちは今この他の道、いはゞ積極的手段による緊縮の道を見出しそれを講じなければならないはずだと思ひます。

今更いふまでもなく、わたくしたちが毎日消費してゐる一切の物品は、消費のためでなく營利のために生産されてゐます。しかもそれがわたくしども消費者の手にはいるまでには

何人かの手を――彼等もまたそれ〴〵利じゆんを目的としてゐる――經なければなりません。それ故、結局消費者は常に二重三重のさく取に逢つてゐるわけで、現在資本主義の壓迫下あるものは勞働者だけのやうに思ふなら、それは非常な間違ひです。消費經濟を取扱ふ婦人は、殊にこの緊縮に際し、まづこの點に着眼すべきではないでせうか。

經濟上手といはれてゐる婦人たちは少しでも安いものを買はうがために忙しい中を時間をつかつてまでも、何軒かの小賣商店を自分でのぞき歩き、比較研究の上、一番安いものを買つてゐます。しかし多くの場合、安いものは品質がわるいか、さもなければ量が不足してゐるかです。わたくしたちは安いものを買はねばならず、その上ごまかされないやうにしなければならない。實に消費者の利益擁護のために不斷の警戒が必要なわけです。しかしこれからの婦人は皆それ〴〵の仕事をもつて忙しく働かねばならないのですから、買物のことばかりに多くの時間や、努力を費すわけにもゆきませんし又毎日接しなければならない商人を詐欺師かなんどのやうに絶えず疑ひの眼をもつて見、一品毎に怠らず警戒するといふやうなことはずゐぶん不愉快な、又厄介な話です。百貨店は今日小賣商を壓倒するほどの大流行ではありますが、營利本位といふ點では何の違ひもなく、かつ浪費を誘惑するあらゆる施設が完備してゐますから、絶えずその誘惑に婦人は抵抗してゐない限り、少々小賣商人より物が安い位は何のこと、必要以上のものまで買ひ込んで却て節約とは全く反對の結果を招致する場合も少くないことでせう。これらに較べれば公設市場は理想に近いものでなければなりませんが、しかしそれとてもわたくしが今いはうとしてゐる消費者自身が組織しさうして管理する消費組合におよばないのはいふまでもありません。

勞働者は資本主義の暴壓から、自分自身を保護するために團結して勞働組合をつくりました。それと同じ意味で、消費者もまた利じゆんを目的とする資本主義的生産による被害から自分自身を擁護し救濟するために消費組合をつくりました。消費組合は改めていふまでもなく消費者によつて組織された團體で、消費者自身が、營利のためでなく消費のために、物を生産し、直接組合員である各消費者に供給するのであつて利じゆんはもとより中間商人のさく取もなく、これほど安心していゝ品を安く手にいれる道はなく、從つてこれほど眞の

意味の緊縮にかなふ道もない譯であります。

しかし多くの婦人は今のところ一應はかういふに相違ありません、消費組合は消費者にとつて利益なものであらう。しかしわたくしたち家庭婦人は生産事業を起したり、生産品の直接購買をしたりするやうな事は出來ない、と。成程婦人が家庭の中に立てこもり全然孤立的なあるひは個別的な存在としてある間はそれは不可能に相違ありません。しかしその同じ彼女等に一旦相互扶助的に團結し、そこに組織化されたならば、不可能も可能であつて、今日世界の消費組合國といはれる英國でさへ、この運動のはじめは八十余年前、僅二十八名かの貧しい勞働者によつて起された小さな一消費組合であつたといふ事實はわたくしたちを勇氣づけるに十分です。我國においては消費組合運動は一般からはまだ理解されてゐませんけれど、主として無産階級の間にしん透し、次第に發展を見つゝある現狀であります。

消費を擔當する家庭婦人の地位は重要なものであるに拘らず、彼女等はいつまでも封建的家庭生産時代のまゝの孤立狀態にとり殘されてあつたがために、その職能を十分發揮し得なかつたので、若彼女等が消費者組合をもつことが出來たならば、その時彼女等の力は組織を通じて、消費經濟の改善合理化のための日常のさまぐな經濟運動にも活ぱつに進出してくるに相違ありません。

いはゆる緊縮運動はすでに宣傳の時期を終へ、今や具體的な實行期にはいらうとしてゐるのだと聞きます。「家庭消費經濟改善の方法如何」の課題に對し各婦人團體のお歷々婦人の頭の中にどんな名案がひめられてゐるかは知りませんが、わたくしは婦人自身の問題として、（政府の政策如何に拘らず）消費組合運動を提唱しようと思ひます。

今回の各婦人團體の緊縮運動が、政府のための、更にいへば民政黨のためのたゞの提燈もちに終ることなく、その收獲として消費者としての婦人の社會的地位を高め、婦人に參政權をもたらすと共に、より大なる他の收獲として消費經濟に對する婦人の自覺を深め、消費組合運動への一般婦人の關心をよび起すであらうことを、わたくしは重ねて、慾深く期望します。（終）

× × × × ×



支那革命の本質と南京政府の地位

（一）支那革命に關する二つの見解

支那革命の本質に就て、今日二つの相異つた見解が對立してゐる。蔣介石政權の安定、强化を以て革命が徐々に成功しつゝありとするものと、之を以て全く反動の勝利なりとする見解とが卽ちそれである。前者は、國民革命を以て支那の資本家階級の封建的諸勢力に對する爭と見做し、支那が其の國權を回復し、民族的統一を圖り、近代的國家の仲間入りをすることを以て、其の革命成功の目標となしてゐるものであり後者は、産業の公有化、土地問題の解決、帝國主義の打倒と從つて支那に於ける農民及勞働者の完全なる解放なくして革命の成功はあり得ないとする見解である。

極めて常識的な見解に依れば、ブルジョア民主主義革命と社會革命とは、其發生の上から見て當然前後の關係を有するものであつて、ブルジョア民主主義革命があつて、初めて近代的な無産階級が發生し、資本主義の發達とともに、其勢力が强大化し、そこに初めて社會革命が用意されると說かれてゐるが、若し此の公式を以て支那革命を見るならば、支那には、まだ近代的無産階級は、極めて僅少であり、まだ封建的舊勢力に對する革命も嘗て行はれてゐないばかりでなく、資本家階級が何等成長を遂げてゐないのであつて、斯うした事情の下に於いては、革命は先づブルジョア民主主義の領域に止まるのが極めて自然の姿でなければならないのである。

しかしながらかゝる低級な公式論は暫く別として、少しく實際の事情を基礎として考察を進めるならば、支那には次に示すが如き事情に於いて所謂ブルジョア民主主義革命は不可能であるといふ結論に辿りつくのである。

（二）支那に資本主義は成立しない

資本主義が成長するために最も重要な條件は、非資本主義的な環境である。資本主義は、先づ農業經濟を破壞し、家庭手工業を奪ひ、それらの人々を以て、工業生產品の需要者としなければならない。其點に於いて支那が尨大な非資本主義環境にめぐまれてゐることは、事實であるが、此環境の大部分は、既に外國資本主義の蠶食に任せられ、鐵道の占有により、租借地、租界地、航行權等の存在により、外國の經濟的主權が確立されてゐる。然つて其處に、市場を開拓しようとならば、必死的なる外國との抗爭が先づ展開されなければならない、

第二に、支那の產業は其の關稅に依つて保護される事が少ない。世界の各國が均しく關稅の障壁を高くして產業の興隆を圖つてゐる時、支那の企業家のみは、全く無防備のまゝ、國際的競爭の强制力の下に立たされる。譬ひ關稅の形式的自主權が確立したとは云へそれは要するに支那の政費が關稅に依つて負擔されるやうになるだけで產業の興隆のためには如何なる意味をも有たないものであつた。(――今年二月實施の新關稅々率は何よりも之を實證する――)

第三に世界の市場は、悉く帝國主義的政策に依つて分割され、爭奪されつゝある。しかるに支那は、其國の市場と、資本とを守るに足る政治權力を定立させることが困難である。少くとも國際帝國主義は、强力なる支那政府の成立を妨害する。南方に於いて英佛の、北方に於て××の經濟的、政治的權益を抑壓する政府が存在し得る可能性は、現在に於いて全くあり得ない。斯かる條件の下に立つ支那政府が國內の資本家の援助を力とするよりも外國帝國主義の番犬となり、其の利益を容認し、其經濟的侵略の玄關番を力めることが如何に容易であるかは、此に指摘するまでもないことである。

こんな條件の下に於いて資本主義の成長を求めることは殆んど不可能であり、資本主義の成長を實質的基礎とする、ブルジョア民主主義革命の行はれざるも亦當然のことでなければならぬ。

(三) ブルジョア民主々義革命の不可能

かうした事實は支那の歷史的事情が之を說明する。第一革命が淸朝を轉覆した時に於いて國民革命が北洋軍閥を打倒し得た時に於いても、支那の政治的中心は依然として資本家に移らず、資本家階級の經濟上の優越をも將來せしむることな

かつたのである。資本家階級の成長しない處に於いて近代的無産階級が發生し得ないのは勿論であつて、支那革命をブルジョア的段階と無産階級的段階に區劃するならば、支那にブルジョア革命は成立せず從つて無産階級的××も存在しないといふことになる、從つて此の兩者を公式的に區劃しようとする前揭の考察は全く無意味以外の何物でもあり得ないのである。

しからば支那革命の本質は何か？　其本質を規定するものは何か？　私は難かしい論證を捨てゝ一言に、それを要約しよう。

それは端的に云へば、世界帝國主義と、其の交錯した利害關係を代表する軍閥及び民族資本家に對抗する農民、勞働者の革命であつて、其の本質に於いて世界的影響の下に立ち、密接なる世界的相關々係を有つてゐるものである。

（四）　支那革命の本質

之を更に分り易く、くだいて云へば次の通りである。

支那現在の軍閥と、政治家とは其の社會的基礎に於いて、國内の資本家、財閥に據つてゐるのではない。蔣介石がたとひ浙江財閥の庇護を受けてゐるとは云へ、其の主なる支持者は、イギリス帝國主義であり、××のそれである。若し仔細に觀察するならば、凡そ支那に活躍する軍閥、政治家にして未だ如何なる國際的支持關係をも有たないものは、嘗て殆んどなかつたと云ふことに到達するだらう。從つて其内政上の紛糾は全く國際的意味に解せらるべきものであり、支那は世界の縮圖であるといふことは、事實を突込んで考察するものには、何人にも肯定し得るところである。

從つて同時に世界の帝國主義的諸對立は直接支那の内的對立を喚起す。寧ろ支那の内的對立は、反對に世界帝國主義の抗爭を意味するものである。此等の内政的困亂は、外國帝國主義が現に、絕えず抗爭し、相磨擦しつゝある狀勢の反應によつて時には、爆發にまで到達しようとし時には反對に、全く安定化せんとすることさへ生じ來る。之を以て一口に「支那は解らないと言はれてゐるが、解らないのは世界の政局であつて支那自體ではあり得ないのである。しかも此等の對立した國際的諸勢力は、常に變幻極なきが如くであるが、一段其共同の利益を擁護するに際しては、實に果斷であり眞劍であり時には峻酷に過ぎる位である。此に支那革命の特殊な

困難が伏在する。

次に興味深く見らるゝものは、支那の資本家の運命である。それは、斯かる政治的條件の故に、强力なる政府を有することなく、國際帝國主義の爪牙の下に、裸體でさらされてゐる資本の如何なる運動法則を有つかといふことである。之に就て具體的に說明し得ることは、おそらく、外國帝國主義の手段化されたる產業の部門に於いて繁榮し、民族的繁榮と自主的經濟の上に於いては、不可避なる衰退が到來するだらうといふことである。

斯かる見解の總結論は、支那革命が要するに支那一國では濟されぬといふことであり、世界的規模に於いて行はれ、世界的支持なくしては困難であるといふことである。支那侵略を資本主義行詰りの最後の避難所にしてゐる各國は必死的な抑壓を以て支那の民衆運動の上に臨むことであらう。此に世界的に重要なる轉期が發生する。

（五）南京政府の煩悶

以上、稍々抽象的ではあるが、支那革命の本質に就いて二三の重要點を指摘した。かゝる諸關係の下に於いて南京政府の占める位置如何は頗る興味ある問題である。

蔣介石政府の政治的標榜は、軍政財政の統一と國權の回復地權平均と資本節制（統制）等であり、それらが各其緒につきながら何れも極めて困難であり、牛ど絕望的な狀態でさへあるのは何人も知悉するところであるが、此困難が何處より來るかは、大に考慮を要することである。軍政の統一（裁兵問題）が、直接に、南京政府を强化するものであり、其の成否は、從つて南京政府の運命をトするに足るものであつた。しかるにそれが一度着手されて、直ちに廣西派の蜂起となり、北西軍との抗爭となり、寧ろ南京政府の存命をさへ脅さんとするものであつた。それは決して傳ふるごとき裁兵費の困難に依るものではない。これこそ實に支那革命の秘密を解くべき一の謎である。

軍政の統一なき所に財政の統一はない。統一がないばかりでなく、中央財政なるものは、僅に、二三省の出費を以て之に充て、地方よりの徵稅は全く不可能である、と云ふことである。更に國權の恢復は如何、誠に蔣介石の言ふが如く三年を以て外國軍隊を徹退せしめ、領土を完全に恢復し、不平等條約を撤廢し、鐵道を回收し關稅自主を徹底し得るだらう

か。勿論其の一二は或は可能性があるだらう。しかし愈々實行さるゝ時になつて全く骨拔きにされないものは唯の一つでもあるだらうか？

既に以上のものが困難である。地權平均にしろ、資本節制にしろ未だ問題にすらなつてゐないことは極めて當然である。此に南京政府の煩悶が存在しなければならない。今やしかして支那革命は其のブルジョア的標榜に於いては全く無意味であるといふ結論に到達したのである。

（六）南京政府の變貫

斯うした結論は、當然南京政府を一つの岐路に立たしめる否、南京政府は既に成立の當初から十字路に立つてゐた。

國內の政治的狀勢は少しも好轉せず、之が擁護者たる資本家財閥の地位も安定しないとすれば、政府は益々無力化し、其對內外の地位は益々低落する。そして事實上、其組織を擴充して農民勞働者大衆の支持を得るか、國際帝國主義に跪いて其の庇護を受くるかの何れかでなかつたならば政權の存續は不可能であつた。

蔣介石が如何にナポレオンを氣取つても、國際的情勢は、

この驕兒をして、全く英米×佛の諸國に拜跪することを餘儀なくさせた。そこに反動的存在としての彼の政權が安定化されやうとしたのである。半身不隨的資本主義を背景に、しかも國權回復を骨拔きにして、國際帝國主義に依りすがる蔣介石の姿が、かくして歷史の表面に現れて來たのである。

此に反蔣運動の擡頭がある。しかしながらそれが蔣介石の代表する外國帝國主義との抗争に於いて果して勝味ありや否やは全く疑問に屬する。たとひ迂餘曲折の後其の人々に依る政權獲得がやがてあり得たとしても蔣介石と同一轍を蹊まざるを得るや否やは大いに疑問である。たゞ農民及勞働者の支持を得て國際帝國主義に對する强力なる戰を展開することが出來るならば、問題は自ら進展する。

支那の强味は、其の厖大なる資源と、無際限なる消費力である。之を支那自身に於て護り通すならば革命は自ら成功する。しかも之を護るの道は、農民と勞働者の組織であり、大衆運動を禁じ階級對抗を抑壓する政策に依つて支那革命を完ふしようとする事は絕對に困難である。何となれば支那は其自體抑壓され拘束された國家であり、組織と行動のみがそれを解放するだらうからである。（廣瀨庫太郎）

福耳外四題

奥むめお

福耳

曾つて（五年ばかり前）私は「福耳」といふ綽名をつけられました。聞いたつて仕樣がないことは成べく聞かない方針、聞いて反つてムシヤクシヤすることやしよげ反つたりすることを耳に入れない方針、くど〳〵しい人の噂話などには立寄らぬ方針を立てゝ、自分で自分を引き締めひきしめてゐるうちに、私は福耳になりました。

そしていつの間にか私は福耳になりすぎました。どうやら福耳になり過ぎたらしいぞ、と、時々私はさう思ふのであります。

私のやうに、地味ではあつてもとにかく世間的な仕事を進めてゆく者にとつて、辛いにしろ、甘いにしろ、世間を吹いてゐる大小の風はそのまゝ、直接間接また私の仕事の上にもさし響いてくる風であつてみれば、たとえ無責任な人の噂にしろ、さう何ごとにも馬耳東風の「福耳修養」でもあるまい、と思ひ直してみるやうにこの頃なつたのであります。

何故なら、どうにもならない樣な、又、どうにでも、なるやうにしからないやうな、つまらないことを、聞くまい、云ふまい、思ふまい、と三方閉がりの心の扉をたて廻してゐる内に、私は、聞いておいた方が宜かつたことを往々にして聞き漏し、私に聞かせておきたかつたこと、聞いて貰ひたかつたこと等々の精一杯の人の心づくしをまで、大分、切り出しかねる樣な硬直した雰圍氣を對者との間に作つて人を寂しがらせたことが尠くありま

せんでした。人の性格にも依ることとでせうが、いけないことだと考へこみます。

かうして忙しく仕事に追はれてゐる者が、一々無責任な人の言葉や世間の噂などにかゝづらつてはしやいだり悲しんだりしてゐたんでは、全くやりきれないでせうから、必要が餘儀なくさせた緬耳修養だつたかも知れませんが、然し、友人たちの多くが（中でも、女の友人に特に多い）殆んど自分といふものに何の定見もなくて、右に左に、頼りない人の言のまゝに流れ漂ふてゐる根なし姿をみてゐると、何といふ、あてにならない者をあてにして頼りない暮しをしてゐることだらう、と又、齒がゆくてなりません。

但し、過ぎたるは及ばざるが如しとか、私とつき交ぜて二つに割つたら丁度よい人間が澤山に出來ることでありませう。修養も、度をすぎて思ひがけぬ瘤を作らぬやうの注意が肝要だとこの頃しみ／＼思ひます。

据膳に箸をつけるな

民政黨内閣になつてから緊縮と消費生活の合理化といふことが、大分婦人の間に考へられるやうになりました。この頃各婦人團體が擧つてこの問題をとりあげてゐるのは何と云つても力強い傾向であります。然し單に、與へられた緊縮の据膳に、婦人が箸をつけるだけのものであつたならば、それはまことに根底のない、盲動沙汰だと云はねばなりません。

曾て愛國貯金といふ人騒がせな名目で一日一錢の貯金勵行が、内務省文部省あたりのお役人の音頭とりで婦人界を風靡したことがあります。（さう遠いことでもないのですから、現に未だそれを實行してゐる處も尠くないか知れません）そして一週年後の八月末日現在の調査に依ると凡そ四拾七萬一千五百七拾六人の多數が、この貯蓄に參加してゐるのです。

かの銀行騒ぎの起つた當時、倒れかゝつた銀行への今後取戻される見込みが全然ない貸つけ金になつた金子やボロ會社の救濟資金にあてられた金子は、多くかういふ貯金部からユーズーされたものであつた事は公然の事實

であつた。そして得をしたのは少數の資本家及びそれを操る政黨屋だけで、一般民衆はあちこちの銀行に預けておいた虎の子まで猫ばゞにされて或者は氣狂ひになつた或者は縊つて死んだ、といふ悲劇を數限りなくひき起したのではありませんでしたか。

　納税する以上、その税金がどんな鹽梅にどんな割合で使はれてゐるかを知るべきであり、大がゝりな宣傳で貯金を人にすゝめる以上は、貯へられた金子は（國民の貯金が、そのまゝそつくり金庫にねかされてあるものと思ふのは大變な考へ違ひです。）はどうなるんだらう位の見透しをはつきり持つて臨むべきでありませう。尠く共愛國貯金の名に於て婦人や子供までが動員されて一錢二錢と積み重ねて行つたお金子の行方について、何らあづかり知らず、發言權も與へられないまゝに、一二資本家のために、それも失敗のあとの尻拭ひに廻されるとは、何といつても不合理です。

　某々女流名士の數氏がつねに役人の手先きに使はれて無反省にもきのふは愛國貯金、今日は緊縮、教化總動員と、おうむ移しの宣傳に全國行脚は御苦勞なことですが——それに釣られて全國多數の婦人團體が無反省に、躍り出してゐます。——せめて、婦人もこんなにお國のために重要な役割をふりあてられてゐるのです。私たちに發言・權利を（それが即ち婦人參政權であるのですが）與へよ、と强硬にもちかけるほどの意氣込みもなく、空漠な躍りを、たゞ命せられるがまゝに漫然とあやつられて踊るが如き現狀は誠に不甲斐ないことだと思ひます。

　さういふ意味で多くの婦人團體は今日まだ、婦人としてのはつきりした自覺をもたない無反省な御用團體にすぎないと云はねばなりません。

目次さんの死

　ずつと以前の本誌に屢々詩をよせて下さつてゐた目次緋紗子さんが二十八歳の若い生命をとぢて逝きました。この頃は御無沙汰勝ちに暮してゐましたが、悲しい知らせをうけて私は胸をつかれました。傳へ聞くところに依ると、東京朝日新聞社からうけて

ゐた彼女の收入が一家六人の生活費だつたといふのです。二間きりの貧しいバラックに住んで彼女は文字通り生活苦に倒れたといふのですが、生前懇意だつた友人たちを驚かせたことは、長い交りの間、たゞの一度も彼女から暗い影を見出した者はなく、それほどの生活苦にあえぎ乍らそれらしい口吻を彼女から一人も聞いた人がないといふことであります。べに白粉の粧ひも人並みにいつも、きちんとしてゐて、明るく元氣だつた彼女は男の友人にも女の友人にもいつも變りなく親しく交際つてゐたのでした。

彼女のやうなのこそほんとうにモダーン（現代的）な婦人だつた、と、今更に追憶の涙新らたなものがあるのであります。默つて身にすぎた重荷を背負つて生きつゝ愚痴を云ふでなく、つひに力及ばず急死した彼女。

幾多の職業婦人の中には、目次さんのやうに苛酷な負擔にあえいでゐる人がきつと尠くないでありませう。目次さんのやうな勝氣な女がなぜ、死んでしまふまでそんな不當な重荷に默つて打ちひしがれてゐたでせう。一人々々の職業婦人の力はいとか細く弱いとしても、婦人全體の聲として起つとき、必ずや拓けてゆく道はあつたでせうに。

謹んで目次さんの死を悼みます。

子供の誕生記念

或る雜誌社から、子供の誕生記念に何をしたか？と問合せをうけて私は、忙しく走らせてゐたペンを措いてちよつと考へこみました。

空をみ上げると申分のない秋晴れ。こんな陽ざしの時は、椽側に干した蒲團の上で子供たちをいぢめて轉がしたり、丸めたり、縛りあげたり、して遊びくらしてみたいやうな氣になります。未だ杏一が二つか三つの頃コスモスが束になつて白や紅や滅茶滅茶にゆらり〳〵と靡いてゐる庭を喜び乍ら、私はよく、子供相手に遊び暮す時間をもつてゐました。

特に子供の誕生記念にと云つて、或る事を初めたことはありませんでしたが、丁度偶然の暗合で、長男は、わ

が國の婦人運動として劃期的な意義をもつ彼の新婦人協會の創立と時を同じうして生をこの世に享けたのでしたし、長女は、わが職業婦人社と齡を同じうして私の胎内に宿りました。新婦人協會當時、主として政治運動に力を傾けてゐた關係から、私は杏一のおでこ頭を撫で乍ら、いつも「日本の婦人はこの兒が幾つになつたら全き政治的解放を獲ることだらう」と思ひ〳〵したものでした。（今日でもやはりさうでありますが）、十年の歳月は私にいろ〳〵のことを考へさせてくれ、敎へてくれたばかりでなく、わが國の一般婦人運動の上にも實に複雜多樣な内容をもりこませました。私といふ一個の微力な人間を緯として今日に至つた一脈の婦人運動が、偶然にも私の長男と長女の誕生記念となり、共々に貧しい乍ら健かに多くの人に助けられ護られてすく〳〵と伸びつゝあるといふことは私に與へられた何よりの感謝であります。私の成長も偏へに、この子供たち及び私の携つてゐる仕事の成育の内にあつたことを思はずにゐられません。

（十月廿四日　私の誕生日に記す）

□

放浪詩人の青柳さんが今川橋の病院で、いま看護婦として働いてゐます。

杏一「青柳さんの病院で僕たちも診て貰へるの？」

母「あそこは大人の病院です」（實は花柳病專門）

杏一「大人の病氣って――神經衰弱たらいふあの病氣か。そんなら丁度、お父さん、お父さんがみて貰ふといゝや」

□

お父さんの友人の××さんが椽側で、かみそりをあてゝゐます。未だ若い、ニキビのあとの消えない青年。

紀伊子「あれ、おぢさんの顏はメクラの手紙のやうだね。メクラの手紙はね、字で書くんぢやないんだつて、お母さんにみせて貰つたよ、デコボコに小さい穴があいてある白い紙だから――」

□

講演を聞きにみえた山村の女敎師、あとの茶話會席上で告白して云ふ。

「婦人運動に就いて、といふ題だつたものですから、スエーデン式の話だらうかドイツ式の話だらうか、と平素體育を熱心にしてゐます私は全く勘違へをして今日はまゐりました」

女子青年團教化動員劇の一幕

池田種生

現内閣の全國的な敎化總動員は御多分に漏れず、女子青年團にも及び、去る十月十日、日本青年館に於て全國女子青年團、東京府女子青年團の主催のもとに「女子青年敎化動員大會」といふものが開かれました。私も招かれて參觀の光榮に浴した一人ですが、そこにははる〳〵地方からやつて來た女子青年團の代表者たるものが果してゐる役目が、遺憾なくさらけ出されて敎化動員劇の一幕を見せつけられました。

廣い日本青年館の大講堂のまばゆいばかりに電燈の輝いた上段には全國女子青年團長山脇房子女史、東京府女子青年團長林茂氏（東京府學務部長）を始め役員がづらりと右側に控へ、左側には小橋文相を始め文部の役人がづらりと列んでゐます。下にはぎつしりと各地の女子青年團の代表者及び東京女子青年團員が約一千名つめてゐます、多くは和服でしたが、中にはちらほら洋裝の人もあり、自動車の黒襟飾もゐたやうです。

型のやうな開會の辭から始り詔書の捧讀があつて、山脇團長、林團長の訓辭があります。續いて文相の訓旨、府知事、男子青年團長と何れも嚴めしい方々が、口を揃えて國家經濟の危急と思想國難を説きます。

或は口角泡を飛ばし、或はモダン・ガールをこき下し、或は赤化思想恐るゝに足らずと卓をたゝいて論斷されます。

その有樣は左翼劇場などでやる情景そのまゝなのです。

初めて東京の土を踏んだばかりのやうな女子青年達はたゞおど〳〵として、その光景に壓倒されてゐるばかりです。どうしてかうなつたか、その根本がどこにあるか。それには中々觸れないやうにして（知つてか知らないでか）、誰もが同じことを言葉を代へて言ふに過ぎないのです。

「日本人は感情に走り、すぐその思想に捉れるのがいけない」と叫び乍ら御自分はちつとも冷靜ではないのです。わく〳〵してゐるやうな女子青年に向つて油を注ぐやうに「反動感情の亂射」です。

その間ポン〳〵と新聞社の寫眞班がマグネシュームを燃してドキンとさせるのです。かくて敎化動員劇は申分なくクライ・マックスへと展開されて行きます。

次に文部省の諮問案「女子青年ノ立場ヨリ國民精神ノ作興及ビ經濟生活改善ノ方途如何」といふやうな意味のものに對する討議が始りました。

するとどうです。第一に德島縣の人が立ち上りました。田舍辯の交つた言葉で「國體の觀念を明かにして思想の惡化を防ぎ、經濟生活の改善を圖つて整理緊縮を行ひ以て思想經濟の困難に對抗して行きたいと思ひます、就いてはその具體的方法として……」と黄色い

聲をふり上げて述べて行きます。一生懸命です。並み居る人々はうんざりして終ひます。

そこで議長たる山脇房子女史が、なるべく簡單にとか、地方のことよりも全體のことをなどゝ注意しますが、中々止めません。上段にゐる人たちも下にゐる人たちもがや／＼し出し、中には拍手で止めることを要求するものもあります。（議長の困つたといふ顔付よろしく。）

かくてやつとそれも終りましたが、續いて述べる人が何れも口を揃えて「國家觀念を明かにし……」とやつて來る。そこで議長は一人で三分間以上に亘らないことを宣しました。卽ち政府の言ふことを復演することの時間の冗費をさとつたのでせうか。いやさうではない。自分たちの仕向けた芝居の役割として、あまり田舍の人が眞にうけて、途方もない方へ脫線する事を恐れたのです。

三分間！　その間に何が述べられると思ひますか。要求する人の側としては、その間に同じことを各地の人が述べて呉れゝば滿足なのです。三分間の復演です。一寸うんざりすることですが、これもふりあてられた役割、幕の閉ぢるまでの辛抱といつた顔付です。

そんな事とは知らない地方の女子青年は、一生懸命で述べて行くのです。村の人たちがあんなに困つてゐるのを目前に見てゐながら絹物を着てはいけない、木綿着物を着やうとか、節約しやうとか、を力說するのです。

結局委員附托となつて筋書通りに終りました時、何といふ無駄なことが行はれたかを心ある人——さうです心といふものを失はない人は感じたでせう。

だが（私の述べたいことは之からです。）これ等の女子青年が地方に歸つて女子青年團員を集めて述べることは何でせう。そこには地方の村長さん校長さんなどによつて再び小劇場が展開される事と思ひます。さうあることを目的として開かれたこの集りであることは申すまでもありません。

こゝに於て地方の女子青年は全く自發力を失つて全く政府の傀儡となつて終ふわけです。いや、さうする爲めの女子青年團でした。

それが女子を救ひ、地方を救ひ兄弟を救ひ、やがて人類を救ふ道ならば、それもよいでせうが、決してさうではないのです。それは敎化と名づける網の中に國民をとぢこめてしまふことであることはこの一幕物を見た人は必ず感じることでせう。

私は女子青年の幹部といふ人、指導者といふ人に告げたいのです。役人は魂のないものです。たゞ一つの役割をしてゐる役者に過ぎません。役人は魂を盜まれた人です。そんな人に正しいものを求める事は冷血動物に暖かさを求めるやうなものです。それを知つてゐる人ならば、反撥しなくてはなりません。そんなものによつて骸骨の踊りをやる事を止めなくてはなりません。

現代の社會と政治、それがどうしてなされてゐるか、この經濟的危急がどこから來てゐるか、更に何が危險思想なのか、その根本をたづねて行つたら、恐らくは皆さんの進まなくてはならぬ道が方向をかえて來るのではなかと。かうそこへ來てゐる人に叫びたかつたのでした。（十月二十七日）

子供の教育について

子供殊に吾が子の教育と云ふ事を考へると、私は正直な處參つてしまふ。大人の世界よりも遙かに子供の世界を尊敬してゐる私は、なまなか功利や、打算で歪められた大人の理智や感情で、子供の世界を律して行く事が恐しくなるからである。

我々が親として吾が子の生活を透して子供達の生活を深く觀察すればする程まつたく驚嘆せずにはゐられない。彼等は朝眼が醒めると晩睡る迄、驚くべき旺盛な勢力と、純眞な熱心さで、その視覺に聽覺に、觸覺に、味覺に、空想に思考に觸れて來る浮んで來る凡ゆるものの中に自分を生かさうと、身體全體で生きてゐるのをしみじみ考へさゝれる。空を見上げる眼、土をいぢる手、草の葉を嚙む唇、母親の足音を聞き分ける耳、何と云ふ全身的に打込んだ素直な勉强振りであらう。

こんな風に考へて來ると、私は全く子供達の前に頭が上らない。たゞ生きる事の經驗者――それもよからぬ經驗者かも知れないが――として、子供達が生きる事に熱心さのあまり怪我誤りのないやうに、そつと見戍つてやる氣持、それが一番親としての本當の親切ではないか。私は時々考へ込んだ擧句、こんな風な非教育的、教育者としての親の立場を考へさゝれる。

ペスターロッチであつたか、貧民窟の子供達の遊び場を廻つて、子供達が怪我をしないやうに、ガラスの破片らを拾つて步いた話があるが、大人の出來る教育なんてものはせいぜいそんな處でないか、少くとも子供達の持つ人間性に對してさうした謙讓な處から出發すべきではなからうか。

ルウソウは、その著「エミール」の始めに

――造物者の手から來た時には如何な物でも皆な善いが、人間の手に渡つて悉く壞はされてしまふ。人間と云ふ奴は、彼地の物をば此地にも生やし、此の木の實をば彼の木にも實らせやうと無理を爲る、氣候だの、風土だの、時節だの、そんなことには無茶苦茶だ、犬でも、馬でも、奴隸でも、皆畸形物にしてしまふ。彼奴は何でも顚倒し、破壞する。彼奴の好物は不具と怪物だ。彼奴は何一つ大自然の造つて下さつたまゝに濟ますことが出來ない。人間自身さへも、乘馬同樣自分の便利に仕込み上げて庭木同然、自分のお慰みになるやうに造り變へねば承知することが出來ない――

と云つてゐるが、全く其の通りだと思ふ。と云つて實際問

題になると、さう／＼放任しにも出來ないのではと／＼途方にくれてしまふ。

私の長男は今年十歳になつて、もうあと二三年で小學を終へる事になつてゐるが、私はそれから先の敎育についてもいろ／＼迷はされてゐる。

子供が將來の職業として何を選ぶかは、無論かれ自身の要求によるべきであつて、何人も强要すべきものでない。よし未だ一人前の思考力がないとしても、彼自身の氣づかない、彼の意志を何よりも、尊重しなければならない事は云ふ迄もない。

で、私の我子に對しての望みは、私の望みである、飽くまでもたゞ子供の相談役として考慮するに過ぎない。私は先づ第一に出來ることなら自分の子供に一人前の技能を持つた勞働者になつて貰ひたいと思ふ。單に現在のやうに智識階級が過剩では、將來益々困る事になるだらうと云ふやうな打算的な事だけでなく、人間は原則として何人も生產勞働に携るべきであると云ふ根本的な考へからである。

學問で飯を食ふ、藝術で飯を食ふ、政治で飯を食ふ、役人になつて飯を食ふ、人の働きをあてに、御上品に飯を食はうとする人の何と多い事よ。ブルヂヨアーの寄生生活に對しては、少くとも觀念的には一應淸算されてゐるが如く見える時代常識も、學問や藝術で飯を食ふ――然も勞働以上に社會的に尊敬されて――小ブルヂヨアー的觀念に對しては何等の淸算も加へられてはゐないらしい。私は私自身のルンペン的智識階級の生活を肉體的にも、精神的にもたまらなく思ふにつけても子供にだけは幼い頃から勞働生活に對する信念と技能と體力とをうみたいと思ふ。さうして若し萬一彼自身が自分で秀れた材能を見出したならば、ミレーのやうに百姓生活の中からでも藝術家としての生活を見付けて行くだらうし、ディツゲンのやうに靴工として働きながらも哲學者としての新境地を創り出して行くに違ひないと思ふ。

話は違ふが、エレンケイは子供の母親であるべき女性が外へ出て働くのは、ベートベンや、ミケランジエロのやうな大天才に汽車の釜を焚かせるやうなものだと云つてゐるが、それがもし指が太つて出來なくなるだらうからと云ふのなら、藝術だつて、文學だつて、學問だつて、心から輕蔑する。丁度現在の私自身の生活のやうに。が問題は指が餘り太過ぎる人間と、餘りに細すぎる人間の二つの畸形的人種發生の否定にある事は云ふまでもない。

奥　栄一

關稅消費稅の撤廢を要求す

有信すみえ

關稅引上げの決定

關稅審議委員會は、最近非常に重要な決定を行つた。それは金解禁のため輸入品が安價となるので、これと內地製品との競爭が難かしくなる。それで內地產業保護のため、外國品に附加關稅を課する權限を政府に賦與するといふことであつて、一面から見ると大へん體裁のよい產業奬勵のやうに聞えますが之は實に甚しい消費者いぢめの政策であつて金解禁によつて受ける企業家、資本家の損失を全部、無產消費者に轉嫁させやうとする亂暴至極の政策であります。これに就て井上藏相は「金解禁といふ異常な場合」に限つて必要であるから自分も「その實現に努むる考である」といふ意見を發表し此事が遲かれ早かれ實際政策となつて表はれることは、確實な事實となりました何の品物に課稅するか、何割何分の率にするかは、豫め決定せず時機に應じて政府にやらせやうとする方法であるため、私共は其の影響が何處まで廣がるかを豫想することが出來ませんが、この關稅の本質は充分に理解することが出來、愈々實際に負擔するとき誰が關稅を納めるかといふことも充分確信を以て語ることが出來ます。

目に見えない搾取

關稅によつて搾取するのに都合のよいことは、それが目に見えず、實際に負擔する人々には、何時の間にか無意識的に之を支拂はせるといふ點であります。之が俸給を減らすとか賃銀を低くするとかいふことですと、目に見えて五圓なり十圓なりの金額が每月の收入から減つてくるので、直ちにその反對的方法が講ぜられる。最近にも民政黨內閣は例の一割減俸案で危く落馬しようとした位で、企業家にしろ政府當局にしろかうした方法はなか〳〵容易には行ひ得ないのです。

しかるに關稅は全く之と異つてゐます之を支拂ふ輸入業者は成程其のポケットから纏めて多額の支拂をなしますが、それらは、其々の品物にかけられて、やがて支拂つた以上に、彼等の懐に戻ります

そして實際に其の關稅を負擔するものは常にその品物の最後、購買者である一般消費者に外なりません。此點では消費稅も全く同じです。製造業者、生産者にかけられる莫大な消費稅は、まはりまはつて最後の購買者たちに振り當てられて參ります。各人の着物に、食物に、住居に、消費生活をする凡ゆる人々は、朝起きてから夜寢るまで少し宛此の税の負擔にいそしんでゐる次第です。

舶來品と內地品

關稅が高いなら外國品を買はなければよいではないかと一槪に考へる。內地品を使つてゐれば高い關稅を負擔しないですむと考へる人があります。しかしそれは根本的に間違つてゐます。關稅が外國品排斥のためでない限り、それは直ちに內地品の價格の吊上げとなつて現れます外國製の帽子が十圓する場合には、それと同樣な內地製帽子が、たとひ生産費は四圓五十錢位としても殆んど外國品同樣の値段で賣買されるでせう。此の際五圓五十錢の剩餘は何處へ支拂はれてゐるかそれは言ふまでもなく關稅によつて保護されてゐる內地の製造業者、企業家、資本家等々であります。こんな點から考へますと、我國の消費者が今日負擔してゐる關稅總額を一億五千萬圓としても、之が原因をなして諸多生産品の價格吊上を來し、ために消費者の負擔となつてゐる目に見えぬ搾取の額は、恐らく其の三四倍に達してゐるだらうと思はれます。從つて內地品を使はうが、外國品を使はうが問題は決して解決されるどころでなく寧ろ一部の品物に關する賦課だけでも、其の影響は全消費者であるといふやうな甚しい相互關係を有つてゐることを注意すべきだと思ひます。

生産機關と消費貨物

關稅が直接消費者の負擔となるのは、輸入品中の消費貨物に關する關稅のみであつて生産機關――機械、原料、補助原料――にかかるそれは、寧ろ企業家、資本家が負擔してゐるではないか、といふ意見がある。之は極めて輕薄な見方で、原料にかゝつた關稅は、やがて其の品物に轉嫁せられ、洋服一着が四十圓で出來るものを羊毛に對する關稅のために、一着五十圓になり六十圓になると言ふのは極めて明白な事であります。また機械にかゝつた關稅はやがて其の生産品にかゝつて、たとへば挽材器が一割方高くなつたので、板の値段がそれだけ騰貴するといつた事になります。兎に角、凡ゆる關稅消費稅は悉く消費者に轉嫁される、消

費者の肩にかゝつて來るといふことになります。

現在關稅消費稅のかゝつてゐるものは米、籾、小麥、小麥粉、砂糖、煙草、鹽茶類、魚肉、酒類等の日用品から、繰綿羊毛、豆類、木材、鐵材等々其の範圍は極めて廣く其の稅率も非常に高くて昭和三年度の輸入二十一億に對して帝國の關稅收入は實に一億四千萬圓に達してをります。また、酒造稅と稱する特別高率な消費稅があり、それに依る日本の稅收入二億三千八百萬圓（昭和三年度）で其の割合は、酒一升に就て四十三錢の稅がかゝつてをり、砂糖消費稅が白砂糖一斤當り十錢以上キザラ一斤當り八錢程度に課せられてゐる事實は、既におわかりの事と思ひます。

帝國財政と關稅消費稅

帝國の經常歲入は昭和四年度豫算に於いて十四億九千萬圓のうち、關稅消費稅に依る收入は次の通りになつてゐます。

關稅	一五〇、二九八（千圓）
織物消費稅	三九、八七九
砂糖消費稅	八二、七九七
清涼飲料稅	四、〇〇八
酒稅	二三四、六二七
專賣局益金	一七一、四八一
合計	六八三、〇九〇

專賣局益金が、消費稅の變質したもの煙草と鹽との稅金であることは茲に繰返すまでもない。六億八千三百萬の數字は實に經常部總歲入の四割六分に當つてゐます。これを地主階級の負擔たる地租と比較すれば實に十倍、資本家階級の負擔たる所得稅、營業收益稅、相續稅等の合計に比較すれば二倍半に當り、之を以て見ても如何に國費の分擔が上に薄く下に厚いかゞはつきりするわけです。此の外歲入の主なるものとして郵便電信電話收入二億四千九百萬も、一般消費者の負擔とすれば、日本の財政が常に財源難に惱まされながらも、資本家、地主に課稅することを如何に遠慮してゐるかゞ明白にわかります。

關稅引上の本質

かく見て參りますと、今回の關稅引上なども全く惡辣な政策で、田中內閣が嘗て多額な國帑を以てボロ會社を救濟したり、ボロ銀行を復活させたりしたのと全く同樣な結果になつてしまふわけです。田中內閣が愚鈍で、すぐ尻尾を摑められたのに反し之は頗る巧妙な政策なので、なか／＼其正體が摑まれません。しかしながら此の異常に生活困難な金解禁の時期に際して日本の資本家企業家をして全

く獨占的暴利を國內に貪らしめ、併せて政府が尨大な關税收入を得ようとするものであり、ために、資本家萬々歳をもたらす政策であることは、前記の事がらに依つて明かになつたことゝ思ひます。

金解禁は異常な大業である。此の爲には、國民擧つて臥薪嘗膽しなければならぬとは、一代の僞財政家井上準之助氏の最初の主張でありました。しかも彼に依る財政計畫は、公債買上のため其市價を吊上げて一億八千萬圓以上の不當の利得を一部資本家のためにもたらしました。また高々七八百萬圓を生む爲に、所謂減俸問題を惹起す等、見るものをして常にハラ／＼させてゐますが、其の政策は本質に於いて常に忠實に金融資本家の利益を代表し一歩も讓らない所に其の特色があり、惡く云へば、それらの傀儡にしか過ぎないのであることを此等の政策に依つて證明してをります。

關税消費税の撤廢

かうした政府のやり方から考へますと私共の平素の持論であり、また一般消費者大衆の衷心の要求である、關税消費税の撤廢は、益々縁遠くなるやうに考へられますが、如何なる政府と云へ、民衆の眞の要求を度外して其の政權を持續することは困難であります。現に減俸問題に對する政府の腰の弱さ等から推しても、民衆にして眞に之を要求して立つならば必ずや貫徹し得るものであることは、證明されると思ひます。日本の無產政黨、消費組合等は此の問題を余り重要視しないやうですが、これは甚しい誤りであつて、無產政黨、消費組合は此の問題を標傍して戰ふところに、具體的な階級性が打建てられ、強力な民衆の支持が得られるわけです。殊に、臺所の問題と直接の繫りを持つ此等の運動に婦人は率先して參加し、眞に內容のある、具體的な叫びを以て、此運動を喚起し指導しなければならぬことと思ひます。

今漸く政治期節に近づいて朝野の政黨は、民衆の御機嫌取り政策に、或は軍備縮少の徹底を叫び、或は減税を主張してゐます。我々は其の何れも非常に結構であると思ひますが、それ等の結果を無產消費者の利益に導くためには、單なる軍縮單なる減税では滿足することが出來ません軍縮は絕對に戰爭廢棄の意味に於いて行はれなければならぬやうに、減税は無產消費者の負擔輕減、從つて關税、消費税の撤廢に導かなければなりません。敢て無產消費者、無產婦人の奮起を促す所以であります。

豐葦原の瑞穂の國の米の話

岡田敏子

とよあしはらの瑞穂の國に生れ來て米が喰へぬといふ嘘のやうな話。

みのる秋が來ました。黃金なす穂波は、百姓の胸をとゞろかします。子供も、イナゴ追ひつゝ、みのつた米の木の前に凱歌をあげて馳けまわるのです。町に住む私にだつて秋の感激がなくてどうしませう。

秋、收獲れの秋！
稻穂のにほひ。
もみの感觸。
御飯のおいしい秋です。腹一杯たべて肥りませう。

凡そ人間は一年に、どれ位お米を食べるでせう。

一年に一石一斗三升。一日三合あたりになるさうです。

死にかゝつてゐる病人もあり、おつ乳いにぶらさがつてゐる赤ん坊もあり、洋食にパンを常食としてゐる者もあり、飢ゑ餓いて歎いてる者だつて尠くはないでせうに、それで平均一日三合にやつぱりなるのだとすると、大食家が案外多いらしいですね。

居候、三杯目にはそつと出し。

女の私だちだつて、大喰ひの恥ちはこのところ不用といつた形勢ですが、實はさうでないのです。

米は飯に炊いて食ふばかりでありません。酒になり、菓子になり、餅になり、又もみのまゝ種子として播かれます。その割合は、

御飯として	五三、四二〇、〇〇〇石
種子として	七八〇、〇〇〇石
酒として	四、二四〇、〇〇〇石
菓子に	四五〇、〇〇〇石
餅	三、〇六〇、〇〇〇石

全消費量　　六二、八二〇、〇〇〇石

酒（清酒、濁酒、白酒、甘酒みりん）の原料として出る米の總額は年々減つてゐるさうです。節酒の傾向でありませうか。ビールは四五年の内に四倍になつたと云ひます。

流しもとでこぼされる米粒が中々馬鹿にならぬと云ひます。坊やのお殘り、汽車辨、料理屋、宿屋のあまり飯、お櫃の洗ひ流し、お焦げ、腐敗飯等々。

一家族が一日に一〇〇粒づゝの粗末をすれば、

一日に――十二億十三萬粒。

百七十六石四斗九升　（一升は六萬八千粒）

一年は――六萬四千四百十九石

十六萬一千四百四十七俵

これだけの米があれば、一年に六萬四千人のいのちを繫ぎます。

（全國の世帶數を一千二百萬一千三百餘とす）

ある學者の說によると、健康な人間でも、白米の御飯に海苔のつくだにか福神漬だけをお茶にして一週間つゞけさせると病氣になつてしまひ、甚い下痢を起し血便を出して、そのまゝにおけば死んでしまふさうです。然し人間に何にも食はせずに一週間飢えさせておいても決して病氣にならず、又死なぬのださうです。

ところがこれを玄米か半搗米にするとそんなことがないさうです。

食物の營養として最も必要なヴヰタミンBの缺乏です。Aも隨分も缺乏します。けれど。

一番よいことは常食にして芽のある米をたべることださうです。白米にするために米の三パーセントを取り除いてしまふわけですが、芽だけで年に全國で百八十萬石になります。然もこの百八十萬石たるや、米の中でも營養素に富んだ大事な部分ですから三倍もの價値のものを捨てると同じです。

充分に研いで研いでまつ白にして炊く人がありますが、あれも營養價の大不經濟です。研ぐのでなく糠を洗ひ流すだけでよいのです。

女演說往來

XYZ



（繪入自由新聞の小說「水仙花」の挿繪）

赤い國の御本家のロシアの事はさし置いても、イギリスでは女大臣が現れ、八百萬人の婦人有權者が口角泡を飛ばすと云ふ時代に、女ならでは世の明けぬ我日本に、さても婦人參政權の訪れる事の遲い事よ。が、時代の歩みには何物も抗する事が出來ない。つい先頃までは、振り向いても見なかつた既成政黨さへ、婦人公民權をその御題目の中に入れやうとしてゐる世の中である、婦人代議士が日比谷の議政壇上に現はれるのも、もう目と鼻のやうに近い時日と云つて差支へないであらう。

こうした折柄、婦選運動の側面史として明治初年頃の婦人演舌流行の文獻を漁つて見るのも、まんさら無駄ではあるまい。

演說の語義、語源、さうした詮索は兎も角として、さうしたものが明治の初年十年頃を境として日本の津々浦々迄流行りだしたのは、當時の民心を風靡した自由民權思想に負ふ處大いと云はなければならない。演說と云へば猫も杓子も飛び出すと云ふ當時の風潮が、明治維新の變革によつて、德川三百年の間叩き込まれた女大學式教育から曲りなりにも解放された當時の婦人が影響を受けない筈がない。

處で女子の演說は何時頃から始まつたかと云ふと、外骨氏の「明治演說史」に依ると、明治十一年四月十日、東京女子師範學校で開いた學術演說會に、佐方鎭子、小林榮子の兩女が演說したのが始めてであるらしい。當時「廣益問答新聞」はこれを評して、

「嗚呼困つたものなる哉。女子の生意氣頭に蝶々髷を結び、尻に丹鼎を挾みながら、袴を穿ち書籍を脇にし、行歩あだたるに非ずして三尺を跨がり、威氣揚々たるのみならず、高壇に上つて饒舌するを貴ばず、我々は女子師範生の演說はもう止めた方がよからんと思ふ。さりながら終には寄席へでも出る積りなるか、何しろ餘り舌の滑る者はお尻も輕くなるからと涎を流して之を氣遣ふ」

以て當時の世評の方向を知る事が出來ると思ふ。

其後男子演說が益々盛になるにつれて婦人の中でもこれに伍して壇上に現はれる者は尠くなかつたが、その中でも女流演說家として名を博したのは湘烟女史岸田俊子である、俊子は明治十五六年頃、關西各地を廻つて女子教育の演說を盛んに行つたのであるが、其動機は大阪で立憲政黨の演說を聽いて、感激した結果だとの事である。同女は幼少の頃より秀才の名を唱はれ二十歲の時(明治十二年)宮內省の女官に成り、二十三歲の時演說家に加はるに至つたので、十六年、滋賀縣大津で開いた學術演說會の時には、官吏侮辱に涉る言辭ありとして拘留され、大津裁判の公判に附せられしが、結局それは無罪となり、たゞ學術演說中政談に涉りし科として罰金五圓に處せられた。後、衆議院議長中島信行の妻となる迄、日本立憲政黨の婦人辯士として、盛んに活躍した事は、十五年出版の『演說家百詠選』や『明治演說評判記』の中にその名が錄されてゐるのを見ても知る事が出來る。

斯樣にして岸田俊子始め、其他の女流辯士の評判が高くなるにつれて、物珍らしい當時の人心を煽つて、其論旨よりも顏を見る爲めの聽衆多く、何處で開會しても大入滿員と云ふ有樣なので、遂には興業的に女辯士の演說會が催されるに至つた。十五年八月、江州長濱で澤邊清吉と云ふ者が金主になつて、馬場久尾、勝間照子



磯谷光枝の三女辯士を招待して、演說會を催したが、馬場久尾は國安妨害の廉で拘引され、一行は足留をさるゝに至つたが、澤邊は其れにも拘らず京都で三女辯士の名前だけを利用して、演說會を開き聽衆との間に物議を釀し、警官の手を煩して鎭靜するに至つた事が當時の讀賣新聞に出てゐる。

　此種の傾向は其後益々甚だしくなつて詐欺的に女子演說會を利用する者さへ生づるに至つた。明十六年七月十日發行の「繪入自由新聞」には次のやうな記事が所載されてゐる。

『豫ねて諸新聞へ本月一日久松座に於て女演說會を催す旨廣告し通券等數多賣捌きサア當時になる都合に依り延會とするとて物々しく張札をした處は宜いが三日が五日たつても更に音沙汰のないのは如何にも不審と內々其筋にて探偵せらるゝと大違ひ下谷區坂本町二丁目堀藤兵衛同區竹町一番地遠藤靜雄淺草馬道町六丁目西川虎吉等が龐振りで壽町池田きん同町の稻原などが田原町一丁目北條わか始め其他、踊の師匠杯と語らひ彼等を辯士と觸れ散らして一ト儲けなさんとの企なる事の知れ連累の者一同其筋へ召喚せられ目下取調べ中なりとは呆れた大膽者』

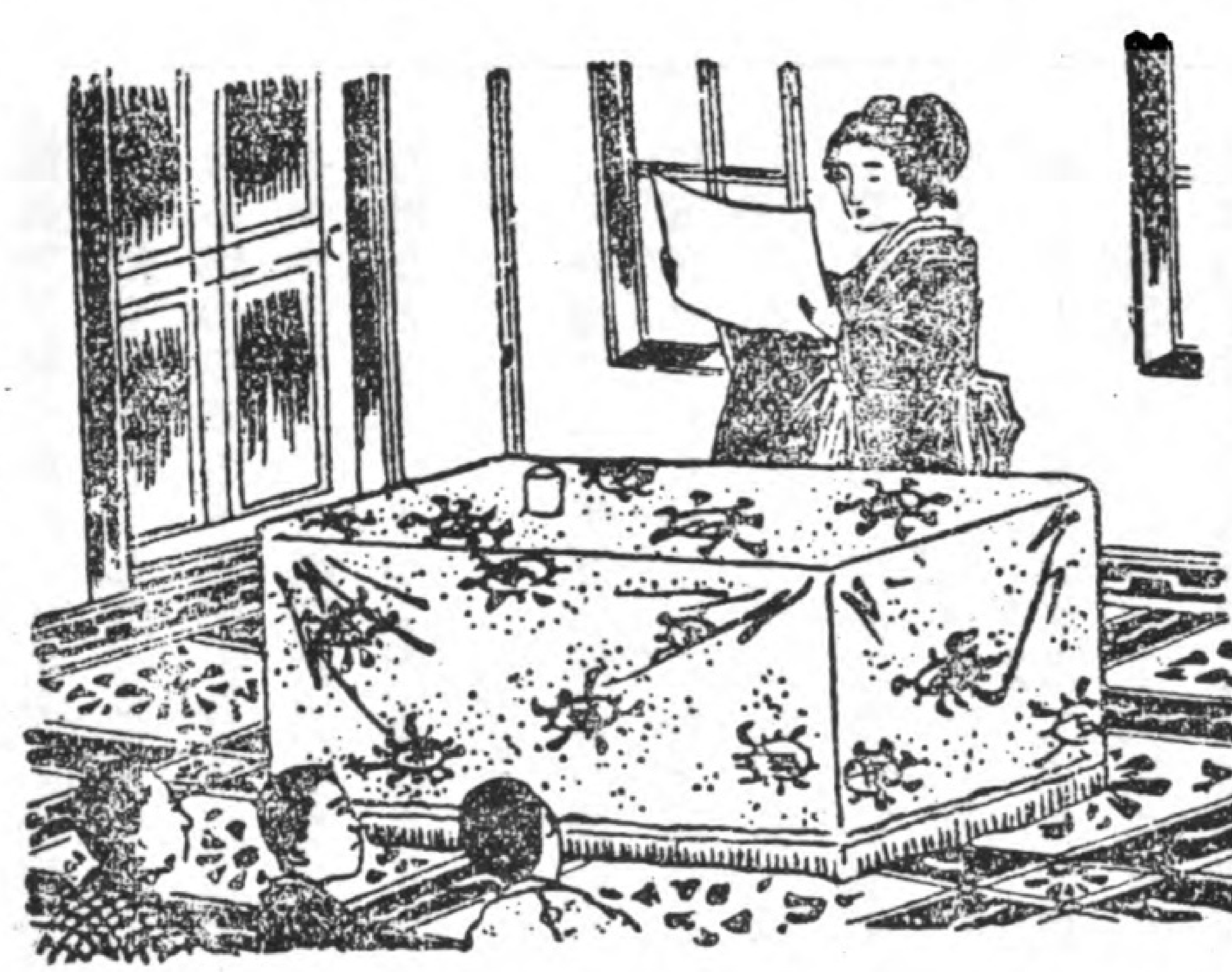
　以て當時の社會事情の一端を知る事が出來ると思ふ。斯くして、十七年頃には演舌に對して「艶舌」と云ふ新語さへ出來て流行されるやうになつた、艶舌とは無論美人のオシヤベリと云ふ意味で女流演舌に對して一種の皮肉として用ひられたもので、遂には「自由燈」と呼ぶ新聞に『自由艶舌女文章』といふ小說さへ連載された。

　婦人の演說は未だ封權的女性觀の十二分に殘つてゐる當時の一般社會から斯樣に嘲笑的の眼で見られたであらう事は想像するに難くない事で、同時に婦人の間にもさうした單なる世間的好奇心に利用され、また、これに投じやうとする輕佻浮薄な輩が尠くなかつたやうであるが、一方では、急速度に浸入して來た外來思想の影響を受けて、眞面目な婦人演說會の全然なかつたわけではない。明治二十年四月の繪入自由新聞に依れば『京橋日吉町の女學雜誌社が會主にて來る五月二日木挽町厚生館に於て開會の女學演說會出席員は、醫學博士ケルシー孃（健全論）通辯鈴本みつ子、ツルー夫人（良鑑の價値）通辯峯尾榮子等にて女子に限り傍聽無料なりといふ』と云つた風の眞面目な會合もあつた。又廣津柳浪が二十年頃の『東京繪入新聞』に「女子參政蜃中樓」と云ふ新しい小說を出してゐるが、

其の一節に

「……昨日午後一時より女子參政黨の倶樂部に於て開かれし黨員の演說會は聽衆頗る多く無慮千二百名はありしならんか、過半は女流にて充てられし、何れも參政熱心の女學生が滿腔の熱血を注ぎて演ぜらるる事故、一として慷慨悲壯ならざるはなきが中に、東京の同黨員中に錚々の名ある山村敏子女史の演說は議論風生、勢ひ奔馬の如く、殊に聽衆を感動せしめ終始喝采の聲絕えざりし」

云ふ迄もなく假空な小說中の記事に過ぎないので、これを以つて兎や角云ふ事は出來ないが、婦人參政權問題が既にこの當時、社會的に論議されてゐた事は、明治十五年に出版された生島馨編の「政談討論百題」の中に「女子ニ政權ヲ與フルノ可否」「男女同權ノ可否」なる項目があり、七年に東京で公開された、諸名士の演題の中には島田三郎大石正巳等の名士に混つて「日本婦人は特に參政權を有す」



毛利カメヲの名が錄されてゐる。が、こうした婦人演說の流行も、三十三年治安警察法第五條の制定によつて、婦人は政治結社に加入する事も、政談演說を聽くことも、自ら演說することも全く禁止されてしまつたので、殆んどその聲を潛めてしまつた。然も婦人が公衆の前で話をする機會はその後益々多くなつたのであるが、それは所謂演說と云ふよりも寧ろ講話、講義と云つた風な地味なもので、大正十一年治安法が改正される迄、婦人の政談演說は全く後を絕つた。

尙婦人の政談演說が禁止される前後の情勢については、古い婦人記者の大澤豊子氏が某紙に嘗て次のやうな思ひ出話を書いてゐる。

「艶な投島田に濃化粧をし、髮の毛のほつれをその頃流行つた大きな肩掛けに被うた妙齡の婦人が、傍聽席からヒヤ〳〵ノウ〳〵と聲援したり、妨害したり……いつの演說會でも婦人席は滿員

でした」屢々開かれた婦人政談演説會には彌次馬の男子が雲霞の如くに押しよせて、大かたは混ぜ返しで終るのでした。上野廣小路の末廣席の二階の陷落したのも婦人政談演説會のドタバタ騒ぎからでした。

斯くの如き狀態で同志は遂ひに同志のために誤られ、得る處は一つもなく、徒らに世の嘲笑を買つたのみで、女政客の末路は消ゆるやうになくなり、治安警察令は程なく發布されたのでした……」

要之、當時の女流演説は、それ自身婦人の實生活に根ざした內的な叫びと云ふよりも、男子側の自由民權思想の流行、極端な歐化主義にかぶれて現れたものであつた丈に、社會的には單なる好奇心の滿足、ひやかしの目的になつて終つたかの如く思はれるのは遺憾な事である。（完）

（三九頁より續く）

東京の新宿、大阪では九條のやうに驚異的發展の場所もあるが、土地の騰貴趨勢も停沌してしまつた。少しづゝはあがつてゐるやうだが貨幣が價値を失つた分量だけの騰貴に過ぎない。郊外地などは逆に下つてゐるところが多い。

郊外地の文化集團は都市の高い家賃に掃蕩せられた一味徒黨が、靜かな安息所をこゝに求めるのだが、冬は淋しく夏は蚊が出る。酸素の多い空氣を呼吸する代りに、肥料の臭ひを嗅いで幻滅を感じる。警察は手薄であるが犬だけは撲殺してくれる。下水はつまり塵埃は山を成し、八百屋も肴屋も別莊相場と稱する法外な暴利ぶりで、しかも品は古い。葱も大根も恥かしさうにうなだれて恐縮してゐる。肴はトラホームのやうな眼をしてゐる。

それでも都會の長い手は急速な過程で郊外地を席捲する。そこが借家企業家の跳梁場である。こゝに住んでゐた原始農民群は勞働豫備軍として都會へ驅逐せられ、金のない借金のある家主はハネ煉瓦の地盤に米松で妙な家を建てる。雨が洩つても風が吹き込んでも中々修繕なんかはしてくれない。では家賃を拂はないよとおどせば左官をつれてきて壁土の膏藥を貼つてくれるだけ。

さりとはつらひ、借家人も、家主も。

×　×



借家勘定帳

北村兼子

民法上の家と家族制度の家と戸籍面の家とは非常に相違したものであるが、實際上の家といふのは人間の容器であつてジプシーでない限り地震でない限りは固定したハウスを離れて安全なホームはない。家屋物質は住居精神の宿るところで芝居の道具建やキネマ撮影所の家ではなく、もつと魂の落付くところでなくてはならないが、魂を落付けるも無料ではない。家賃を支拂はねば身も魂も遊離しなければならないやうに家主から家明渡し訴訟の前驅たる内容證明が配達される。

借家人を保護するつもりの借地借家法ができて借家人は大に困つた。これによつて富豪は厭氣がさして借家なんかは建てない。從つて家貸し競爭が減じてきた。ほんとうに借家人を利するつもりなら英國流に二百五十萬戸の公營住宅を建てるか、又はそんなお金がない貧國政府なら不徹底な借家法なんかをつくらないで、家主をして勝手に競爭させた方がよかつたと思ふ。

日本のやうに低利資金で所得税も家屋税もかゝらぬ百戸や二百戸の公營住宅を建てゝ得意がつてゐるのは役人の借家遊戯であつて、家主を萎縮させて借家を少くするばかりである。イギリス式に二億五千萬圓も補助金を出して奬勵すれば家賃制限法も强制できるが、家屋政策なくして借家法もあつたものではない。

借家法ができてから借家人が搾取を始めた。家主は搾取さ

れ始めた――地主ではない家主である。地主兼家主なら切離して考へてみやう――、家賃を支拂はないで立のき命令がくれば、けしからんと横になる。半季や一年は無家賃で住んで家を明ける時には家主に頭をさげさせて出て行く方法はいくらもあるが、こゝには公益のため詳記を遠慮するが、この常習者にかゝつては鬼家主の鐵棒も揮り廻はせない。

大阪では日本大衆黨が惡家主征伐をやり、東京では檢事局が惡借家人を檢擧する。家主にも佛もあり鬼もあり人間もあるやうに借家人にもその三つがある。差押へを恐れるやうな生な借主なら家主も苦まないが、左傾と右傾との兩極端は鬼家主の脅威である。佛家主が佛相場を維持してゐるのは何十年も何百年も以前に安い土地を買つた舊家だけ、新たに家を建てたものは高い地代を拂つて高い建築費をかけてゐるから、そろばん上に活きる道として鬼家主となつて手きびしく取立てねばならぬ。

これから借家でも建てゝもうけやうとするものは法律に屈けない金なしの無茶ものか、又は建て賣りやと稱する建てゝは賣り、賣つては建てる、見かけばかりの安普請を人につかませて賣りのく飛行機借家である。借家人は飛行機搭乘者であるから何時家賃をあげられるやら、いつ家を賣られてゐるやら、いつほうり出されるやら、いつ家賃の轉付命令がくるやら知れない。これでは不動産でなくして動く家である。

賣り飛ばすのが目的の家であるから安普請では二年たゝないうちに戸障子がたゝない、目ぬきの老舗料のついてゐる場所は、家を離れることは生活に離れることであるから建物に對する愛着はあるが、臺所の狹いこと右向いたら左を向けない。結び立ての丸髷のつとで猪頸になつた若夫人は困つてしまふ。軒切りのあつたところは家が狹くなつても店はそのまゝとして人眼につかぬ臺所を縮少するから、家庭は家はあつて庭がない。

俸給生活者は新らしい家を求めて轉々するから家に親しみがない。親しめるやうな借家もない。疊建具を虐使するから子澤山の借家人になれば半年にして家をあばら家にして、埃及のルイン化する。新建の家は月一割五分に廻つても家齡が短いから家主のために黄金の卵を産んでくれる時代は二年に過ぎない。

家屋投資に對して年一割に當る利廻りを水準としてこれより高い方が多いか安い方が多いかといへば高い方が多い。金

を貸しても高歩に貸倒れが多いのと同じく、家賃の高い家は借家人のたちが悪いから借家の三十戸も持つてゐる家主は時々裁判所へ行かねばならぬ。だから、近代傾向として借家なんかを建てゝ鬼といはれるのは上品な金持ちにはなく、貧乏人が家を建てゝ金をやりくる機關にする。

そんな家に金を出す金貸しもがらが無い。借家もちは信用がない上に目一ぱいに借らねばならぬ。底なしの家は銀行は相手にせぬ。地付きで勸銀の眼にかなつたものは上等であるが、一番(抵當)だけでは舞つて行けないから二番三番を借りる。三番や質權付きは日歩八錢、棟あげした時分から賣渡し證書付きで借金するのもある。規外利子やら口入の手數料を天引きするから、年二割の高歩となる。借家人は家主を通じて金色夜叉の喰ひものになつてゐる。

家主征伐といへば痛快に耳に響くが、こんな連中は相手にとつて不足である。後期資本主義時代には借家企業だけが社會事業ではない。家主が社會事業家なら農民も紡績も同樣でなくてはならぬ。農民には米穀法があり紡績には操短のカルテルはあつても、家主だけが補助も自衛もなく、鬼の死骸となつて街頭に暴される。

家主が貧乏な證據は登記所の帳簿に現はれてゐる。東京大阪の兩市にゐる周旋屋は公然と不公然とを併せて三十萬人、これは賣買の仲介よりも擔保付の貸借で生活してゐる。登記の待合所や代書の事務所へ行つてみれば三人づゝ組合つて話してゐる。安すものゝ水牛の印をつくのが債權者、上等の水牛の判を押すのが債務者、印のないのが周旋屋で、この周旋屋が走り廻つて、一日に何百件といふ擔保貸借を仲介するから無疵の借家は少く、登記簿を血みどろにする。

健實なビルヂングなら年六分に廻つて家屋償却ができたら上等の部で、それは信託預金や社債より少し割がいゝやうなものだが金利が上つたらつまらない。土地の値上りといつても東京では丸の内、大阪では堺筋だが、丸の内は三菱の金で押し切つたもの、堺筋は御堂筋が行幸道路になつて裏町に格を落された。復興の東京には助成金が付いても、ろくな家が建たない、大阪では立派な道路ができても兩側にはマッチ箱のやうな家ばかり、道路は立派になつても富の程度に應じないから道路倒れである。土地投資も都市計畫で盛衰地を換へ投機性を帶びるやうになつたが、土地受益税でも設定せられては投機の興味もなくならう。(以下三六頁へ續く)

農村の産婆として働きたい

西野いく子

何も御多忙な、あなたを煩はす程の問題ではない。規則書を取〻寄せてみたら、すむ事ぢやないかと思ひ乍ら、石橋をたゝいて見ない中は渡らうとしない田舎者に共通な用心深さが、とう〳〵ペンを取らせて了ひました。失禮をお許し下さい。

女子師範を卒業して六年、私は乏しい家計を助ける爲に出來る丈良い教員に、ならうと、努力して來ました。自分自身の慾望は、その爲一切犧牲にして參りました。然し私は、もう二十五歳です。そろ〳〵自分の爲の生活を初めた所で、世間にはどうあれ、自分だけでは不幸な娘呼はりはしないですむと思つております。

自分の爲の生活――自分の信念の表現であるところの――に就いては以前から考へておりました。貧しい者の味方として、貧しい者の爲に盡そう。といふ風に。私の今までの收入によつて貧しい家計が保たれてゐたのですから、今までだつて貧しいものゝ味方だつたわけですが、しかし其の爲に私は一方に於いて多くの貧しい者を見殺しにする立場に自分をおかなくてはなりませんでした。義務教育の他には教育を受けることを許されない子供たちにとつては、何の役に立ちそうもない事まで教へこむ爲に彼等に重要な何物をも教へる事が出來ずに劣等生の汚名を背負はせては送り出さなくてはならない私の立場をこれ以上つゞけたくありません。教育はそうするより外仕方がないのです。貧しい者に理解ある同情を寄せるよりは、お金のあり餘る人達に、どう假つぶし、させてやらうかを考へる文部省の忠實な小使であらねばならないのですから。

それで私のやりたい事は、産婆です。ほんとは醫者に、なりたいのですが、もう年を取り過ぎましたし、第一學資の出道もありません。醫者の診察も受けられないものゝ數に較べて立派な腕のある産婆を必要とする産婦の數は少いのですが――貧困は人々を頑健にするとみえて、こちらでは難産といふ事をあまり耳にしません。――それでも、産婆が百姓家へ行つた時の、いゝ、ごうまんな態度についての話は、私の反感を極度にあふります。私は純朴な農家に、そうしたものを近づけたくありません。手輕に産婆になると云ふより、確實に手腕を養成したいのですが、前に書いてきた事を通して、お察し願へるでせう通り、私は私の力でそれを得なくてはなりません。今まで金は大低家の爲に消費して自分の爲の貯へは殆んど無いといつてよい位です。退職する時、一時恩給とかが三百圓位は入るでせうが、それと僅ばかり貯金があるばかりです。新潟や、長岡にも、養成所があるのに殊更東京に出たいと望むわけは、一方において貧しいものゝ立場を、世間に訴へる立場をも學びたいと思ふからです。

無謀に近い程の大望かも知れませんが、私はぜひ、やりたいのです。出來る丈優秀な腕前の所有者となりたい事、金の無いと、時には先生やその他婦人界に活躍なさ

る方にも、面接の機會の得られること、三拍子揃ふのが無理でしたら殘念乍ら最後の一つは犧牲にしてもかまひません。適當な養成所、お敎へ下さいませ。今急にやめる事は、子供達の迷惑になる事ですから、彼女達を社會に送り出して來年の四月から自分の歩みを初めたいと思ひますけれど、新しい生活に、は入る爲には準備が必要でせうと思ひまして、少し早過ぎるかも知れませんが、お敎へを請ふ次第です。

御社の皆樣の御健在を祈ります。

立ち盡す

川上つたよ

朝から立ち盡してゐる足は、しびれて了つて一寸引きづつて見ると、づきつと痛んで鐵のように重い。櫻橋の四つ角た立つて無意識に、今京橋の方から來て止つた電車の人ごみを、そつと注意する。乘り換えようとして、あたふた洒る人、向ふから來る電車を待つてゐる人、學生・商人、官吏・年增女——それらの一人々々に×××全集廣告の文句を刷り入れた桃色の吸取紙を手渡す。

『何ですか？』『何？』『あ、あれの廣告か』『フーむ』『いりません』『ナーあんだ』

終日左の腕から右の手へ——一枚づつ、默つて手渡す、無興な耳の傍を、人それぞれの態度が、言葉が過ぎてゆく、後の風呂敷包みにはまだ、配り切れない分が半分以上殘つてゐる。

腰をかゞめて商店の時計を覗くと、四時五分すぎ。時計の針は、一體動いてゐるのか知ら。五時迄は、歸つてはならないこの場所、たとえ廣告紙の全部を配り終つてもその場を離れずに、見まはりが何時・やつて來てもよいように立つてゐなければならない——縛られた體。

朝八時半頃から、夕方まで、人ごみと、風と埃りの中に立ち盡して金一圓四十錢也のそれがお務めなのだ。出版屋から一と手に引き受けてゐる中間人物が、一人あて四拾錢づつの手數料を、其のうちから取り上げてゐるのは云ふまでもない——。

戸口から覗く世の中

西しげ子

とりとめもなく家事雜用におはれて、ぶら〳〵暮してゐると辛い。

朝早くから夜にかけて働きつゞけてゐる人や、太陽の直射の前で汗を流してゐる筋肉勞働者、あの人たちのことを思ふと私は辛い。中にも朝鮮勞働者が汗だくの身體で土工をしたり、人夫をしたり撒水車を曳いたりしてゐるのを見る時、彼の人達は日本人よりも賃銀も安いであらうし、厭嫌な方の仕事にまはされてゐるのであらう、それを旅にゐる悲しさに、じつと堪えてる姿は辛いでないか。

上り列車に乘ると大低の場合鮮人の居ない事はまれである。まるで內地に金の出る山でもあるかの樣に、生活におびえて、何處かに落ち着きを失つた姿、氣の毒な鮮人

勞働者に、やさしいいたはりを與へることは出來ないものかと、私は考へるのである。

何時であつたか、北米へ出稼ぎに行つて歸つた人の話しに、『私達でもアメリカに居れば朝鮮人と同じです。活動を見に行つても米人の隣りへ席を取ると、さつと前の席へ變つて仕舞ひます。それはほんとうに日米親善なんて嘘ですよ』と。日本の中でも海外出稼人の多いこの地には、米國がへりだとて、大きな家に住んでゐる人が多い。

×

私しの知つた五六の人もそうだけれどもきまつて中々のしまつ屋である、異國で苦しい思ひで蓄へた金である、おろそかに浪費出來やう筈のない金子であることは察せられる。ところが同じ國民同志の間で汗と血で蓄へた金を奪ひあつて何某富豪と言つた人達の豪勢振りは如何だらう。一人の富豪が出るためには、幾百、幾千、幾萬の人が貧しくされ、その勞働を搾取されてゐる筈だ。外國の金を持つて歸らない限りそれは當然の事である。そうしてその豪勢振りを持つて一般無産階級の鼻を折らうとしてゐるのだ。

『抑へられてたまるか』とあせつても現在の狀勢はそれを支へて居るではないか？

×

夕飯の仕度をすまして外の方へ水を打つてると、朝家の前を通つて出勤する人達が一日の勤めを完全に終へて、否、サボツた人もあるかも知れぬ、兎に角家にと急いでる。

會社員が通る『××經濟學』この本をこの人が持つてるのも二十日位ひになる。

女事務員が歸る。一九二九年型の人造絹糸の洋傘にモスの着物を着て袴をつけて、何とか全集を小脇に。

過ぎ去つた若い頃俸給を貰つた日に、本屋へ廻るのを唯一のよろこびとしたあの時代がなつかしまれる。あの頃はよく本を買つて讀んだ。金子の餘裕もあつたし、讀書する時間もあつた。家から小使を貰ひ度くないので家事のひまひまに他人樣の縫物をして居ることの頃、小さい資本家を相手にして氣がねして、その金を無駄には、どうしても使へなくて、好きな本を、唯一の友に求めてゐるけれども、それもゆつくり讀む事を許されない。

『婦人運動』は急いでよむ。他は露西亞の飜譯物を讀むぐらゐで、とうから資本論は讀みたいけれども、むづかしいので、ゆつくり讀書の出來る日が早く來るように、祈つてゐる。が貧乏人には中々時間の餘裕も無い。少しでも理解して與れたら一日に少々の時間は割かれるのに、本を持つと、すぐ呼びつけられる。

一番、おそく勞働者が歸る。朝は一番早く出かける人達だ。しやれる事もなしに、走るようにして家路にいそいでゐる。恐らく貧しい乍らも樂しい親子夕べの食膳に、父を待つ子を描き乍ら急いで居るのであらう。材木運搬してゐる老人も歸つて來た。

今日も向ひの指物屋さんの處で二十歲前後の若い人が鋸の目立てをして居る。他人樣の仕立物をして居た私しは、餘りにその聲が大きいので針持つ手をやすめて聞いて居た。話しは斯うだ。

『大將 今通りやがつたのは刑事でしよう』

『よう知つとるの、A刑事よ』

『彼奴だ、俺を調べやあがつたのは』

『如何したな。不良少年にでも間違ひられたか』

『宿屋に居た時一齊臨檢とかで默つて俺の部屋へ入つて來やがつて、『何處の者で年は』と言つたので、癪に障つたものだから『徵兵檢査よの』、と言つたら、『徵兵檢査は何歳か』吐しやあがつたのだ。

『あんた適齢を何歳か知らんの』

言つたらおこり出してとう〳〵交番へ連れて行きやがつた、そして一晩止められてエッ糞彼奴を見たら仕事が出來ん。やられて見ねば解らんがの、隨分人を馬鹿にして居ますで、その後新王地で一度やつぱり彼奴にやられた。社會主義の本を讀み初めたのもそれからよ。社會主義の本を危險なものとして見ないで居たが、刑事に侮辱されてからと言ふもの今頃は一生懸命に讀むのよの。友達にも貸してやるし、何時か血祭りに上げてやらう、斯んな氣になりますよ』

『フフン、此の頃の若い人はみな社會主義の話しをするの。この前居た職人も鳥取から來て居たがやつぱり……困つたもんだ』

『大將、俺は如何にして彼奴を首にしてやらうと思つてるし、彼奴は彼奴で何處かで俺を檢束してやらうと思つてまさあね。』

「それでも盜人が入つたら、一番に警察に行こうがの』

『ハツハツハツまあい〻、どつちかにならあ。』

話しは途切れた。格子越しに最一度見直すと殺氣だつた顔は二十四、五にも見える。

大將と呼ばれた向ふの主人が

『外見してへまやつてはいかんぜ』

『彼の刑事を見たら如何しても手が動かん――では若し具合が惡かつたら明日にも來ます』

『早く歸らんとあの峠で又無提灯でやられるぞ』

『待つてまさあ』

斯んなに云つて歸つた。

×　　×　　×

×　　×　　×

一歩ふみ出して

遠藤榮子

茱新聞社の事務員として働いて居ります職業婦人となつて、少し社會の空氣を知つて來た私は、何かしら强い要求を感じました。あまりにも無智な、理性を離れた自分を見出した時。もつと勉强しよう――資格のある人間になろう――女學校出たばかりでは、社會に出て働かせて貰ふ價値は、まだ〳〵ないと思ひました。

何が自分に最も適した職業なのだらう？　一生を最も意義ある生活に！　と、そんな事を幾度、考へたことでせう。けれど境遇の許されない爲、總てオジャンになりました。最後に御誌を拜讀致しまして、非常に心强く感づるようになりました。奥先生の活躍振りには、眞實、心から感謝して居ります。どうぞ私のような者でも誌友としてお導き下さいませ。

「全き一の力」とならば

松沼スヰ子

黄昏の暮色の中を
田より歸る男とをみな、
疲れ果てし鉛色の面と
乾き切りし白路を辿る重き足どり

晨よりゆふべ迄
終日の勞働に
疲れ疲れて、歸る我が家
待つは何ぞ。

仄暗き三分芯のランプの下。
泥と汗とに汚れ
遊び疲れて
蚊にさゝれつゝ爐邊に眠る
いとし吾子

かくて
幾年幾十年
働けど、働けど
疲れゆく農村。

過勞、激勞、多產、
根深い因襲に支配さるゝ

家庭經濟展覽會より

消費經濟の合理化！を目ざして、東京朝日新聞社が主催となり、家庭經濟展覽會が去る十六日から開かれました。とにかく世は擧げてこの緊縮時代です。大藏省・內務省を始めとして、糧友會、被服協會、女學校等から數多い參考品や調査資料が、次の樣な見出しの下に出品されてありました。目についたのから擧げてみませう。

——不健全な我國の世帶——

國家經濟の總元締大藏省の調査で、年年增大してゆく輸入超過や、正貨の增減對外投資の狀況などが示されてあります。

——無駄の多い個人の世帶——

文部省の調べに依りますと、小學校兒童の敎育費が一年平均一人當り四圓四十三錢だそうですが、又一方に於いて、酒と煙草とに支拂ふ金額が、國民一人あたり平均、酒、拾九圓七十二錢、タバコ、四圓九十錢といふ數字です。

——どうすれば生活が樂になるか——

商品の主な取引系統です、即ち、

農村の女のドレイ的生活。
おゝ、その悲慘！

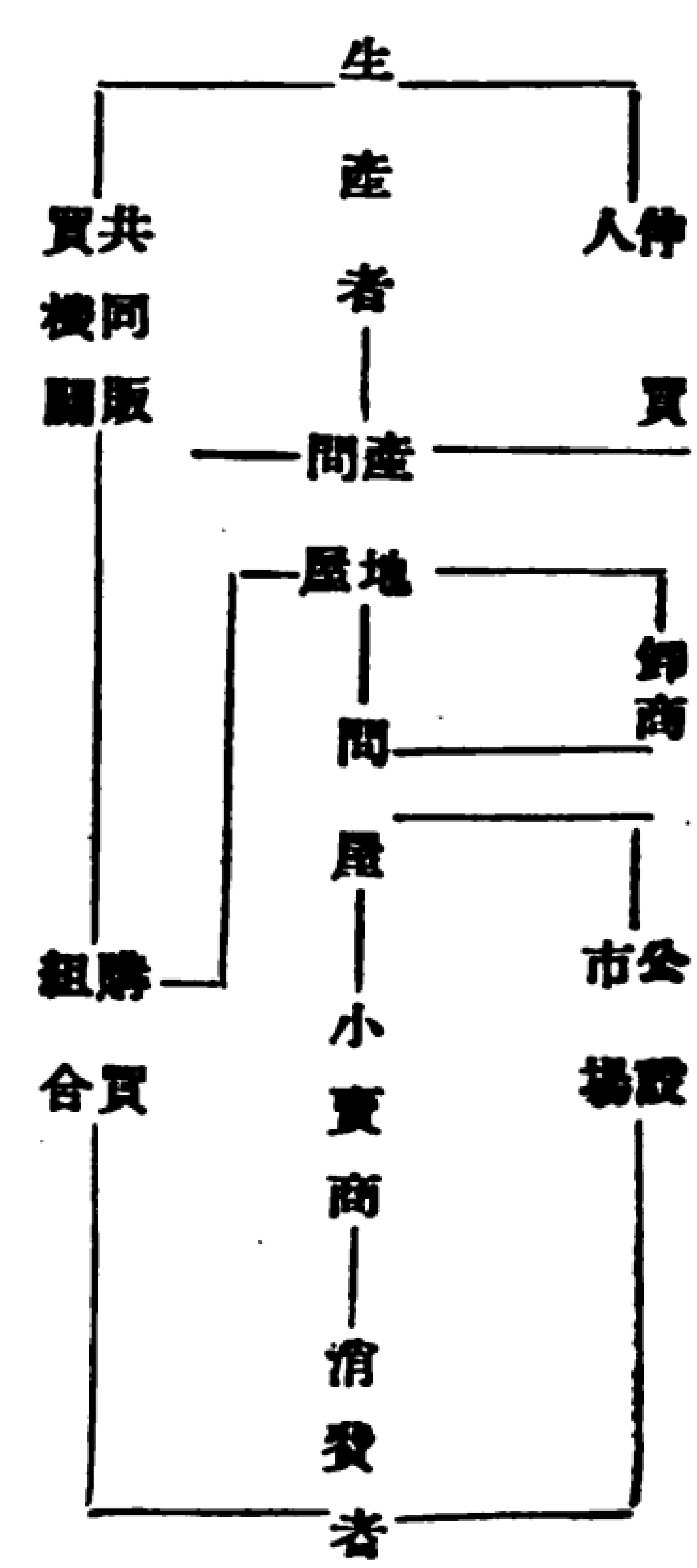
働けど働けど貧しき生活、
農民よ！
其の不合理を
どうして叫けばずにゐるのだ？

資本主義の重石の下に
壓しつぶさるゝ農民よ。
蹶起しやうではないか。
團結しやうではないか、
そして
搾取階級の非を絶叫し
其の重石をはねかへさうではないか。

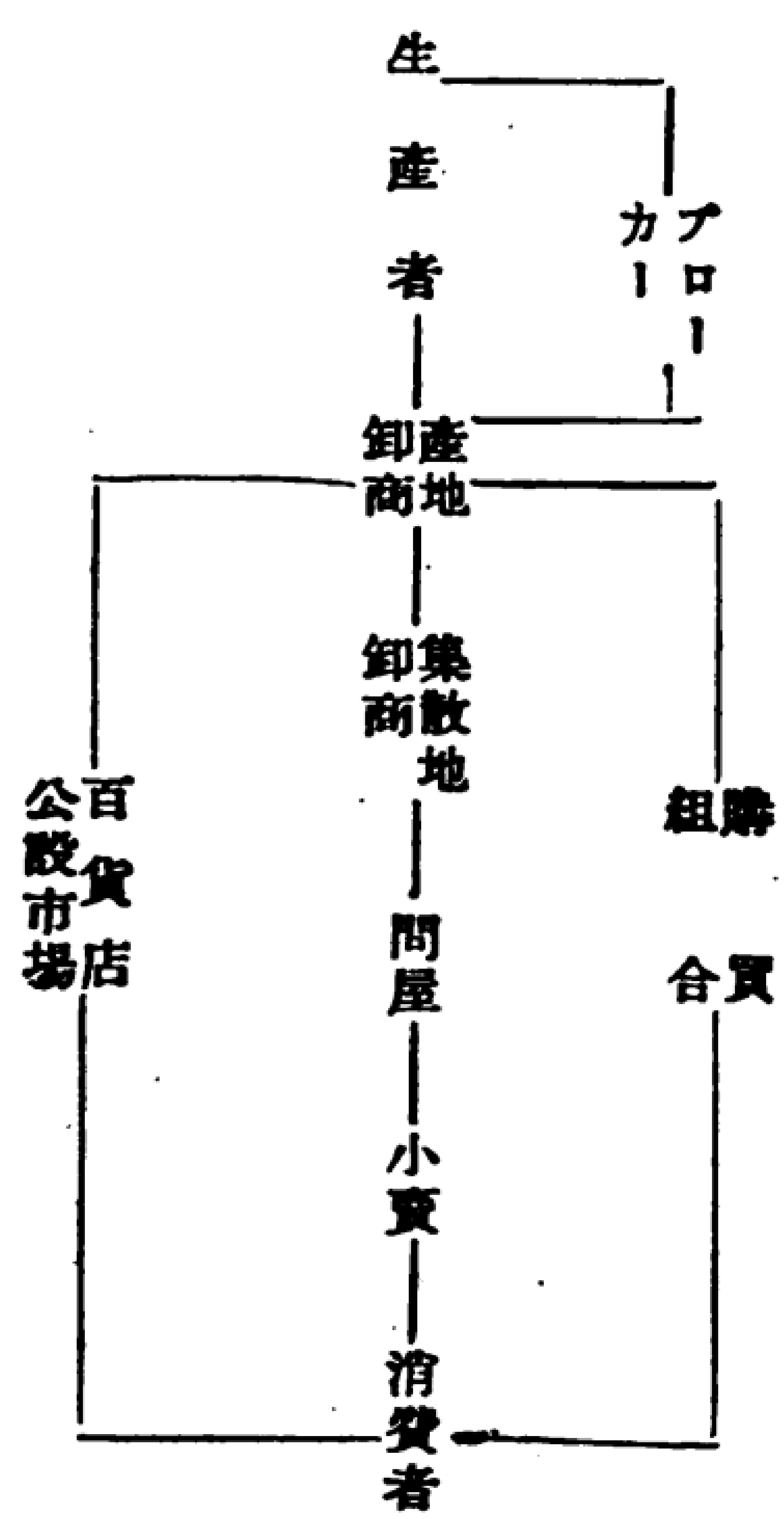
よし、そのひとりの力は弱くとも
よし、そのひとりの願は貧しくとも
「全き一(ひとつ)の力」となる時こそ
我等の自由旗の高くかゝげられる日。

しひたげられし土の母よ！
全農民の母達よ！
御身等の
ヘラゲヤ・ニロウナとなる日こそ
吾子も、われも、けうだいも
皆救はれる日ではないか。

白米の取引



炭の取引



蔬菜(そさい)、果實(くわじつ)などは三人から六人を經て消費者の手に入り、魚類は五人――七人、牛肉は五人――六人、その他絣(かすり)、縞(しま)の木綿織物は七人――少くとも四人の中間商人の手を渡り其の度毎に値段が吊(つ)り上げられて最後に消費者にくるのです。

婦人界近事

◇二度目の婦人博士◇

『紅の色素サルサミンの研究』を大成して此の度理學博士になつた黒田ちか子女史は我國に於いては二回目の婦人博士ですが女史は東京女高師の職に在る傍、この研究の爲に、滿五年間の時日を打ち込んだそうです。

◇兒童保護運動◇

大阪朝日新聞社の社會事業部では、全關西婦人聯合會と共に、兒童保護事業に就いて色々計畫を立て準備を進めております。

方面委員が大阪市內の各方面の兒童保護の實狀を調査したり、それの救護を受持ち農村に對しては農業期託兒所に寄附金などを贈つて後援するとのことです。

――衣類はどうすれば經濟的に出來るか――

ここでは廣幅織物の長所を示してこれまでの並巾を廢し、廣巾物を奬勵してゐます即ち、

一、內外共通の幅であるから輸出に適する事、
一、生產能律が增進するから原價が安く上る事、
一、原絲を良く吟味するので品質の良い事、
一、生產費が安いから賣値も安い事、
一、裁方が簡單で縫代少く、縫ふ手間の省ける事、
一、裁ち方の工夫が自由で、入尺の節約が出來る事、等特徵があげられてゐます。

次に織物工業の進歩するにつれてまがひ品が如何に多く生產されるか！それに就て專門的な見分け方が幾つか有りますが、簡單な方法だけを拔いてみますと、

燃してみる方法
- 動物性の臭みがあり黒い球形に硬い灰を殘すもの……（絹・毛）
- 紙を燃す樣な臭で白、又は褐色の灰となるもの……（木綿・麻・人絹）

藥品による見分方
- 溶けるもの……（絹・毛）
- 溶けないもの……（木綿・麻・人絹）

（即ち可性ソーダ五〇瓦、水一リツトルの溶液で二十分程煮てみて）

◇無産婦人同盟の再起◇

大衆黨係の無産婦人同盟では、黨の動搖以來、傍觀の態度を取り、今日迄活動を中止した形で沈默してきましたが、今回織本貞代氏、岩内とみえ氏などが中心となり再興を計り近日中に中央委員會を開くことになりました。

◇至誠會病院の創立◇

東京女子醫專の卒業生の集りである至誠會では、府下千歳村へ至誠會病院を建築十一月より開業するそうですが、入院料最高二圓五十錢から施療室に至るまで設けメタン瓦斯などを應用して衛生設備も完全で、一般への奉仕を目的とすると聞きます。

◇朝日婦人クラブ◇

東京朝日新聞社では同社内に朝日婦人クラブを創設し過日會員を募集しました。

時事に關した講演會、或は講習會、展覽

――家庭で出來る防水法――

衣類の永持ちするか否かは其の手入れ方法に依るのですが、防水法を施すと濡れたり縮んだりする場合の面倒がはぶけます。

防水劑、石鹼、明礬、鉛糖(醋酸鹽)、パラフイン

1、洗濯石鹼 一五〇瓦
　水 五立(リットル) ｝の割合の液に布を浸します。

2、布を取り出して生乾き程度にする。

3、明礬 三〇〇瓦
　水 三立(リットル) ｝割合の液
　鉛糖 三〇〇瓦
　水 三立(リットル) ｝割合の液
　｝まぜると白い沈澱(醋酸アルミナ)を出する。

(一、立は約柄杓一杯の水)

4、すつかり沈澱の後、上澄みの液へ、先の布を浸し、

5、輕く水洗ひをし、

6、尚、水はじきをよくするために蠟で布を輕く擦り火のしをかけて仕上げます。

――メタン瓦斯の知識――

メタン瓦斯は、メタン菌が有機物に作用して生ずるもので、沼、溝の中なぞにも自然に發生し易いものです。この瓦斯は普通勝手元で使つてゐる石炭瓦斯と違つて、人體に無害で、火力も強く、燃料として大そう効果的であるばかりでなく、

會、音樂會、映畫會等を催して、婦人の修養智識の向上をはからうとしてゐます。

◇失業深刻時代◇

やれ減俸の、やれ就職難のと奉給生活者は世間の注目に曝されてゐますが、そのうちでも月給五拾圓――七拾圓位の少額奉給の失業者は、一體どれ位かと、市の社會局で去る十月二十二日第一回の登錄を試みたところ、當日は神田の中央職業紹介所を初め、本郷、大塚、淺草等七ヶ所の合計、約二千三百人の多數に上りました。なほ此等の人々が實際に困つてゐるのか否かを調査した上、約五百名を採用し新設される市の授産場で十一月下旬から來年三月迄、臨時冬期救済を行ふとの事が、報じられました。

又三百五十一萬餘圓の豫算を以つて始められた、自由勞働者の、冬期失業救済は、十一月下旬から來年三月末まで、一日約四千六百人づつ採用されるといふことです。

勝手元の排棄物――野菜をむいた皮や、根、米ぬか、紙くず、人糞、馬糞、落葉などの、不用な物を利用して發生させるといふのが、長所です。

それでは、どうしてこのメタン瓦斯を採集するかと申しますと、その装置は、一定の大きさの、コンクリートの槽を地下に設け、槽の内部は、水壓槽とか、瓦斯の發生する所、溜る所、洗滌する所など幾つかに分れて、おります、これに排棄物を投げ入れる孔、屎、尿を導く管などを設け、泥水を入れたり、不用な物質を入れてメタン菌を培養、繁殖させ、醱酵を促して、瓦斯を採り、管でみちびき七輪や、瓦斯燈に使ひます。

瓦斯發生の材料としては、植物纖維素を有する物でさへあれば、何でもよろしいので、投げ入れた物は、殆んど瓦斯體と、液體とに分解して了ひますから、僅かな沈澱物が殘るに過ぎませんし、總て藥品消毒されますから衛生的であるばかりでなく、コンクリート、土管、鐵管等で作られた装置は半永久的です。

但し、初めて作る場合、設備に要する金額に就いてはつきり示されてありませんで遺憾でした。これは折を見て研究したいと思ひますが、大體に於いて一家族の排棄物から、その家族の炊事用瓦斯の大部分が得られるとのこと、即ち十人位の家族でしたら一ヶ月約二、〇〇〇立方呎の瓦斯、（市營瓦斯に換算すると、ほぼ五圓六十錢）が只なわけです。さし當り個人でそれ〳〵作るわけにもゆかないでせうけれど、一つの市とか或は村、或は集團的な生活を營む所でこれの装置をもつとどし〳〵し利用出來たら………と瓦斯問題のヤカマシイ折から考へさせられます。（完）

ブルの隣り

英美子

Y大學を卒業した松田は、伯父の手引きでその翌月から××省の或る課に、傭ひの一椅子を占めることが出來た。

「お情けでも何でも可いわ。これから貴方の力でお米が買へるのだと思ふと、本當に壹錢の銅貨が生きてゐるようよ。――私も、も少しこの手が放せるやうに成りさへすれば、人の縫物でも何でもするわ。」

「僕のサラリーだけで、やれる見込みがあるかい？」

さう松田に言はれると、僅五十圓の俸給から、松田の通勤費や小遣を差引いた殘額では、玲子にもどう豫算の立て方もなかつた。只、折々小遣といふ名目でS市の彼女の父からの送金を、生活の補助に宛てゝ打算するより他は無いのだつた。

玲子は、もう是以上は蟻の這出す隙もないといふ程の消極的方針でゆくことを、松田にも頼むのだつた。

先づ第一に入要なのは、松田の洋服だつた。

洋服を買ふために、彼等は、引越をする相談を纏めた。敷金を取戻す爲だつた。

「今月の家賃を差引いて、それで買へるやうな服があるでせうか？」彼女は、鳥渡小首を傾しげながら言つた。

松田は、（元は、能くこんな表情をしてみせたつけが……）と心の内で遠い日を思ひ出しながら、

「柳原にゆけば幾らもあるさ。――」

「柳原に？　さう？」

塵埃を浴びながら風に吹かれてゐる、首のない洋服の列が、彼の眼の中で暫くステップ・エンド・ステップした。

二人は、日ならず田端の舊驛上の崖の上に一軒の二階建の家を見付け出した。

「階下たけ貸して貰らへませんか？」

家主は、××省××課勤務とした名刺と、彼の草のやうな薄い口髭とを見比べながら、

「階下だけはどうも困ります。二階だけといふならば又何んですが……」

入口に立つてゐた玲子も一生懸命だつた。

「幼い兒も居りますし、是非、階下だけ貸して下さいましな。」

小一時間近くも根氣良く歎願する二人の前に、家主も遂に剛情敗けがしたとみえて、澁々ながら階下だけ貸すことを承諾した。否、承諾したと云ふよりも、斷然撥附けることに些少ばかり怯んだといふ方が妥當であつた。

彼等は、それから二時間たらずの内に、がらくたを運んで終つた。

家主は、即日、二階の窓邊に「貸間」とした紙に、嫌といふほど糊をつけて高々と貼出したのであつた。

「これならば、間借してゐるやうでない。」と云つて、二人は喜んだ。

此處は省線にも近く、市電にも十分といふので、「貸間」を申込む人が日に二三人は必ず訪ねて來るのだつた。何

れも、松田達が貸主だと思ふのは當然だつた。

二人は、一日でも長く二階の塞さがらぬことを切望した。故に、「貸間」を見に來る人々へは、成べく無愛想に出來るだけ素氣なく應對した。

――あんな人達とでは……と、思はれるやうに故意に仕向けた。

階上の窓には、松田達の望み通り、いつ迄も「貸間」の紙が濡れたり乾いたりして、風に吹かれてゐた。

柾の垣根一重を隔てゝブルとプロとが、眠つたり起きたり、同じ人生を、餘りに異つた生活様式で送るのも皮肉だが、こんな時には天地自然の作用までが、頗るユーモラスな藝當をやつてのけるものだ。

玲子たちの借りた家の東口には、名ばかりの窓、明りとりがあつたが、隣家の老樹がおひ茂つてゐて、差昇る旭を遮つて了ふのだつた。

ところが、西側に當つて和洋風の素晴らしい建築が此間出來上つてからは、その二階の洒落れたステインド・グラスに朝日が射すと、其處で光線は反射して、或る角度を以て玲子たちの家の表口のガラス戸に當つて、長い〱光の尾が屋内に深く射し込んで來るのだつた。

お早よう――

恍けた旭の挨拶が、この家には西の方から、毎朝聲をかけるのだつた。

或る日曜日だつた。

松田たちが半日ばかり家を空けて歸宅してみると、いつ約束が整つたのか、不在の間に階上には人が住んでゐる

のだつた。

大方、家主が我慢し切れずに知人にでも貸したのだらう。――と、二人は苦笑した。

「臺所は、共通にして下さい。」と、その日暮、家主が言つて來た。玲子は當惑した。

階段の下の間が、玲子たちの食事の部屋であつた。二階の人は、是非その室を通らねば不淨場にも臺所にも、行くことは出來ないのだつた。

貧弱といふよりも、人間の食卓には餘りに悲慘な食膳を、「平呼」といふ菜一つで兎も角も、親子が取圍んでゐる時、

「失禮します。――」と云つて度々此間を通行されることは、全く不快なことに相違なかつた。のみならず、いつも〳〵餘りに恥かしい食膳の上を、美味さうないきのたつ鍋を持つて見下されることは、玲子にとつて辛いことであつた。

一錢でも金のかゝらない副食物をと、頭を痛めるこの家の食膳には、鹽鮭と、うづら豆と、豆腐の汁でも作るより他に名案も浮かばぬのだつた。瓦斯の成べく入らない、調味料のかからない材料の安價なものをと思ふと、料理會で習つた割烹とは、別世界の食物だつた。

先日、或る鳥料理屋で、松田のクラスの送別會が催された時、彼が、歸宅して云つたことに

「僕は、大方一人で、かしわを食つて終つたのさ。さうだなあ、五人分は僕一人で食つたらう。」

「では、貴方だけは當分營養が保留されるわけね。」

玲子は、眞實、袂へでも子供や自分の分を、そつと入れて歸つて呉れゝば――とさへも思つた。

霧

園　和　枝

最後の校正を終り、社の重いドアを肩で押して戸外へ踏み出したのは、薄く暮れかけた眼下の街に、點々、灯がこぼれ初める頃だつた。

一人殘つた編輯室の片すみで、電燈もつけ忘れて文字を拾つてゐた爲、頬にばかり血がのぼつて、久世は思はず全身にくる肌寒さを、袖前に掻き合せ乍ら、江戸川の方から護國寺へ延びた音羽の通りへ、急な傾斜を下つて行つた。

――久し振りで一緒に夕飯を、たべたい、待つてます――。朝出がけに受け取つた手紙の、其のくみ子は、いよ〳〵明日、郷里へ歸ると云ふ事だつた。

それは單に彼女の家の複雜した事情からばかりではなく、彼女の近頃の傾向としての、はつきりした對象に向つて働きかけたい願望が、農村の組織といふ問題に興味を持ち初めてゐることは、文通によつても察しられた。久世は其處の停留所の人々の肩に交つて、そゞろに冷たい氣持で中指の先に沁んだ赤いインクを唇に吸つた。

矢來下の終點で電車を降りて、半丁程行つた左側の露路奥に、くみ子の身を寄せてゐる家があつた。鈴の鳴る格

子を開けては入ると、とつつきの部屋と勝手元との間を閉め切つた障子が明いて、優しいまなざしと、かつちりした顎とに特徴のある顔が、豫期した様に現はれた。

「ようこそ、忙しいんでせう此の頃、でも一度歸ると、ちよつと會えないもんだから」

「こんなに不意に引き上げて了ふなんて……安心して御無沙汰してゐましたのに」

久世は色んな感情が喉元に迄、詰つてゐる氣がして口をつぐむだ。

「叱られるのね、でも仕方ないわ」くみ子は明るく笑つて、

「敬さんも、會ひたがつてゐました、そのうち見える筈なの」

「そう」とにかく、あがつてゐて呉れと云つて、瓦斯の加減を見に板の間へ降りた彼女を殘して久世は氣輕に階段を踏んだ。

お互ひが、お互ひの、自由に動かうとする意志を尊重する考へも多分に有つて、三方へ別れて行つた五ケ月以前——それが、ひどく遠い出來事の様に頭に浮んできた。

その間、三人のうちの敬子は、確かな信念と燃えるような熱情とを以つて王子の方にある工場へは入つて行つたし、くみ子は落ちついて勉強してゐた——そう思ふと久世は、唯いら／＼追はれるような不安に、せき立てられ殆んどを職業探しと、宿探しに走りまはつてゐた自分の姿が、堪らなく、みちめなものに眺められてくるのだつた。

行李も、本箱も、鴨居の油繪も、すつかり片附けられた六疊の部屋の、ちん／＼湯沸しのたぎる瀬戸火鉢に寄り添つて、疊の上の長襦袢に縫ひかけの臙脂の衿を掛けてやつてる處へ、夕飯の支度を終へたくみ子と一緒に、敬子が張りのある調子で話し乍らあがつて來た。

「お變りありませんでした？　あれから初めてね」脱いだオーバーを小脇に、そのまま敬子は寄つてきて火鉢に手をかざした。

「有難う、あなたもお元氣でほんとに何より」

それについで、次々に移つてゆく話題に、久世も何時の間にか、伸々した朗らかな氣持に誘はれてゐた。

――もうああした以前のような氣持で、一緒に仕事する事も恐らく無いだらうし、めいめいの行き方も、考へ方も、違つてゆくだらう、そして現に、くみ子はくみ子らしく、敬子は敬子らしく、はつきり自己を摑んで進んでゐる――久世は熱いコーヒーをすすつた。

外は深い霧だつた。

「神樂坂までね」連れ立つて燈火の濡れた夜更の街を歩き乍ら、三人とも昂奮した互ひの白い息を感に合つた。

人影や、ショーウヰンドや、屋たい店なぞが、霧の中からはつきりした圏内へは入つてきた。

如何に生きるべきかの問題が、混沌とした思考の中心に渦卷いてゐて――あらゆる苦難のどん底のせつぱ詰つた最後の境地から、何かしら打開を求めようとする努力が、火のようになつて全身を、かけめぐるのを久世は意識して歩きつゞけた。



童話

五月

新しい形式の童話であります。猶、これが童話としての價値があるかは讀者諸氏の御高判を待ちます。又、題の五月は物語の季節から來たのではなく、所謂夜明けを示したものであります。

入交總一郎

——まき子、まき子。

呼んでるわ、呼んでるわ。彼の女はさう呟いた。なつかしいあのひとの呼ぶ聲だ。

彼の女は微笑した。そして振り返つてみた。

「行つてまゐりまアす。」

「行つてまゐります。」

ふたりは同じ齢に小學校へ通ひ初めた。小學校は十町程向うのひとつの山の麓を廻つた所にあつたので、ふたりは毎日、誘ひ合せて肩を並べて歩いた。

さうしてふたりは同じやうな過程を五年級に進んだ。

ある朝、ふたりは同じ道をいつものやうに肩を並べて歩いてゐた。さわやかな風がふたりの頬を掠めて吹いてゐた。

「ねえ新ちやん。」彼の女は新吉の方へ顔を向けた。
「うん。」と新吉も彼の女の方へ。
「昨夜の活動寫眞、面白かつたわね。」
「ああ、また見たいなあ。」
「あたい、もうあんな寫眞は見たくないわ。」
彼の女は眉をひそめた。
「なぜだい。」
「だつて、怖いんだもの、あの大きい工場が閉つて、門の外で大勢の職工が騒いだでせう。そのとき、若い男が箱の上に立つて演說をしたわねえ、何だか難しいことを辯士が言つてたわ、すると、お巡りさんが來て、あのひとを毆つたり蹴つたりして引つぱつて行つたわあの男はきつと惡いひとだわよ。」
「違ふ。」と、新吉は儆然と肩をゆすぶつて答へた。「あらア善いひとだ、傑い男なんだよ。」
「だつて、お巡りさんに連れて行かれたぢやないの、惡いことをしたからよ。」
彼の女はさも自信ありさうに、語尾に力を入れて新吉に挑んだ。
「惡いひとは會社の奴だよ。」
「ご主人の命令を聞かないひとは惡者だと、母さんが言つてたわよ、だから、お巡りさんに毆られたりしたのよ。」
「會社の方が無理なことをしたのだ。」
「でも、お巡りさんは、善い方へつくつて父さんも言つてたわよ。」
「ふん、きみんとこのお父さんやお母さんは、ばかなんだよ。」
新吉は彼の女を蔑すむやうに言つた。すると、彼の女は、

「まア、ひどい新ちやん、もう新ちやんと一緒に歩かんわ。」と、目に一杯涙を溜めた。
「ふん、誰がわからずやと歩くもんか。」
新吉も彼の女に負けてゐずさう言ふと、彼の女の傍を離れて、ひとり先へずんずんと歩いて行つた。
彼の女はポッとした目で新吉の後ろ姿を見た。新吉が怒つた。自分をひとり後に殘してあんなに身體をふつて、ずんずんと歩いてゐる。今からひとりで歩かなくてはならない、悲しくなつて來た。急に淋しさが增して來て、しくしくと泣きだした。
「新ちやん、待つて、一緒に連れてつてよ。」
彼の女はさう叫んだが、しかし新吉は後ろをも振り向いてくれなかつた。新吉の足どりは早くなつてゐた。
「新ちやん。」彼の女は泣き聲を絞りあげると新吉を追ふた。
「新ちやん、なぜ、ひとりで行くのよ。」
が、新吉は默つてゐた。その險しい目色は怒つてゐるぞと言つてゐた。
「ゆるしてね、新ちやん。」
彼の女は新吉の腕を兩手でつかまへて、その顏を覗き込んだ。
「いやだ。あれはストライキだぜ。ストライキの大將を善いひとでないといふ奴は嫌ひなんだ。」
「もう惡く言はんわ、ねえ、新ちやん。」
「よし、そんならゆるしてやらう。俺も今にあんなひとになるぜ。」
「まア、さんなひとに？　いやだわ、お巡りさんに引つぱられて行くわ、毆られたり、蹴られたりするわ。」
「そんなことは平氣さ。弱い善いひとのためだもの、そんなことぐらゐ平氣だよ。」
「さう。」
「だから、惡く言つちやいかんよ。」

「ええ。」彼の女はさう言はざるを得なかつた。新吉の言葉がまだ理解できない。いや、新ちやんは惡いことばかり言つてゐるご主人の命令を聞かないストライキの大將になる。お巡りさんに毆られたりすることを平氣だと言つてゐる。善いひとのためだ。ああ、新ちやんは間違つた考へ方をしてる。だが、さう言つてはいけない。新ちやんが怒る、折角機嫌をなほしてくれた新ちやんにまた怒られるんだもの……彼の女はさう思つて點頭いた。

「仲なほりの握手をしよう。」

「え？」

「西洋ではみんなやるんだよ。ね、昨夜の寫眞でもやつたんだらう。味方同志の者が。」

同時に彼の女は新吉の手をかんじた。張りのある快さが全身に沁みて來た。すると、彼の女の心に、昨夜の寫眞のある場面が浮んだ。男と女のふたりきりの場面であつた。あの若い男だつた。美しい女だつた。ふたりは樂しさうに寄り添ふて話し合つてゐた。時折、微笑した輝かしい顔が大きく寫つた。――貧しいふたりは幸福だつた。かうして時間の去るのも忘れたかのやうに戀の樂園にさ迷ひて、別れるときには――辯士はうたふやうな口調で說明した。何だか初めて聞くことを言つた。さうさう、キッスと言つたわ。さう考へついたとき、彼の女の唇から、

「キッス。」といふ聲が滑り落ちた。

「キッス。」新吉が聞き返へした。

その時、學校の方から始業の太鼓が遠くに聞えた。ふたりは我にかへつて小走りに學校への道を急いだ。

教室にはいつても彼の女はあのことを胸に浮べてゐた。强い男の力に賴もしくなつかしく心を、をどらした。「新ちやん。」そつと心の中でさう呼んでみて、新吉のゐる教室の方向へ視線を向けた。教室の中があそこの竹籔のやうに見えた。ハッとして教壇の方を見る、と先生が黑板に竹の鞭を叩きつけてゐた。が、再び、彼の女の胸には、いつも連れだつて來る新吉ではなくて自分を息詰らす力の新吉の姿が浮んで來る。「新ちやん、なつかしい新ちやん。」さうして彼の女はひとり嬉しさうに微笑する

のだつた。

やがて、六年の課業も終らうとした。ふたりは同じ道を樂し氣に歩いてゐた。

「町の學校へ行くと、もつと道が長くなつていいわねえ。」

彼の女は新吉との行き歸りの道が長くなるのを喜んだ。しかし、それは空しい希望だつた。小學校を卒へると、新吉は家の手助けに働かなくてはならなかつた。新吉が田畑に土を掘り返す姿を眺めながら、彼女はひとりさびしく町の學校へ歩いた。

するうちに新吉は都會へ出て行つた。そして年來の希望を滿すために工場へはひつた。

――まき子、まき子。

呼んでるわ、呼んでるわ。なつかしいあのひとの呼ぶ聲だ。彼の女はハイと返事をしようとした。だが、その聲は、あんまり喜びにをどる心に顫へて口の中で消えた。

――まき子、まき子。

また、あのひとの聲が呼ぶ。まア、わたしはどうしよう。あのひとの呼ぶ聲に早く答へなくちやならない。

新ちやんは變つた。この都會の工場にはいつてから、ずい分と變つて來た。第一非常に氣が短かくなつてゐる。だから、早く早く返事をしなくてはならないわ。新ちやん、新ちやん、あのひとは心も變つてるわ。わたしを忘れた。都會の女とうれしさうに話し合つてゐた。憎い、憎い。なぜわたしを呼ぶだらう。いいわ、あんな薄情な男には答へてやらんわ。

――まき子、まき子。

ああ、また呼んでるわ。やつぱりわたしをなつかしく思つてゐてくれてるわね。ぢや、返事をしませう。

「はアい。」

――まきイ、まきイ

けれども、聲はあのひとではなかつた。

「おや？」

彼の女は冷水を浴びたかのやうに、蒲團の上に半身を起こした。

爽やかな朝だ。太陽の光りが輝かしく跳つてゐる。窓の籠の中の九官鳥が、

「まきイ、まきイ、まきイ。」

と、甲高い叔母の聲そつくりな音で、朝の不平をまくしたててゐた。

「わたしはまア。」急に悲しくなつて來て、いきなり、ハラハラと涙を蒲團の襟にこぼした。「また寢坊をしてしまつたわ。」

やがて向うから聞えて來るまきイ、まきイ、ご飯、お辯當、靴と狂燥的に叫ぶ小さい従兄弟たちの聲を豫感して慄へた。そして續いて來る、「まきイ、まきイ、横着な娘だね、いつまで寢てゐる考へなの、お前はもうお孃さんぢやないよ、お前のお父さんは貧乏したんぢやないの、もつと早く起きて仕度をしなくちや、子供たちが學校へ遲れてしまふわ。ほんとに仕様のない娘だ。」と、ヒステリックに叫ぶ叔母の甲高い聲を。

「まきイ、まきイ。」

九官鳥は嵐の前驅者のやうに朝の不平をまくしたててゐる。

彼の女は、昔聞いた、あのひとの言葉が、いまはつきりとのみこめて來た。

この世界をつくる階級と階級との峽に一片の愛情が存在してゐない。ある階級はひとつの階級を輕蔑してゐる。それゆえに、憎惡し、反抗する。嵐だ、爭鬪だ。かうして愛情は片隅に押しこめられてしまつた。

あのひとは機械の響音の中で、愛情を呼びながら闘ひつづけてゐる。

彼の女の心は急に明るくなつた。

外は爽やかな五月の朝だ。

「新ちやん。」だ。すると、彼の女の目からはなぜかしら、喜びの涙が頰に流れた。

編輯室より

園 かづえ

雨の多い秋です忙しくて目をまはしてゐるのを百も承知してゐながら、とつても素敵によかつたなんて中禪寺湖の話しを聞かせる惡友、フフんと鼻先で笑つてゐても、からり雨でもあがつたりすると、ああ、旅行もいいなア――と泌々。

長野から艶々した林檎、これは山梨縣からですよと久し振りに味ふ郷里の葡萄、大阪からは松茸が届いた。ニコ〳〵し乍ら奥さんが新聞紙へ分けて下さるのをくんくん嗅いでは、可愛い頭をぽきりと折らないように、人ごみの電車を氣遣つて、いろ〳〵に包み變へる。

――ふと見上げた街路樹の頂き、行きづりの塀外へ漂つて來るもくさいの香り、お堀の水の色、都會の眞ん中で拾ふ「秋」の破片です。

近頃・新しいお友達が盛んに紹介されて讀者になつて下さいました。皆様のお力で、どうぞこの運動を、つづけて下さい。

社會的に、これから働きかけようとする、或は少くとも其の動きに關心を持つてゐる眞面目な青年達の間にも、支持を得つつありまして、一の社會問題として婦人の問題が、いろんな立場から批判されるようになつたことを思ひます。

『婦人運動』も、ここん處でうんと元氣よく伸びませう。秋の夜長です。讀み物に親しみませう。潑剌と新興する廣般な農村なぞ、まだまだ知識の泌みこんでゆく餘裕は澤山あると思ひます。供給されるそれらの知識をどん〳〵喰ひ足りない茲に、消化し盡して了ふ健やかさは、考へてみる丈でも愉快です。血になるものを、肉になるものを、生活を摑む力となるものを汲みとりませう。

新しい空氣を全身で吸ひ取らうではありませんか。

婦人參政權の問題が、既成政黨の連中から、とやかく云はれてゐるのを耳にします。來るべき總選擧を、あて込んでの彼等の何と見えすいた腹の底ではありませんか、婦人に參政權を與へる、その他の權利を與へる、そして女性が無視されてゐたこれまでの立場から引き上げられる――一體それが既成政黨に取つて何の、關はりがありませう。

永い間、婦選なぞ問題にもしないで冷やかに扱つてきた彼等が今は、反對黨に先手を打たれるのを恐れて、御きげん取り、人氣とりのエサにしようと吟味してゐるのが笑止ではありませんか。

平塚らいてう氏の婦人と緊縮運動は當面の問題として婦人達に取つて重要ですので朝日新聞に發表された分を載きました。

廣瀨氏の世界の展望は、如何に支那を知るべきか、の觀點をはつきり摑ませて下さると思ひます。

有信氏の關稅、消費稅の撤廢も婦人の間に、もつと强い要求となつて現はれなければ、ならぬと思ひます。

それから平林初之輔氏に、プロレタリア文學に就いて書いていたゞく筈でしたが、御都合で次號へお載せ下さるさうです。

十二月號は早く出します。お待ち下さい。

奥 むめお

◆本誌の附錄として婦人消費組合協會の會報「婦人と家庭」を創刊してから、各地の有力な婦人から續々とたよりが在りあちこちレンラクがとれてその反響の大きさにおどろきました。と同時に、大いに力づけられてゐる次第ですが、とにかく、消費經濟方面の婦人の活動がいかに今の社會で要求されてゐるかといふこと及び、婦人全體の傾向として、從來のやうに漫然と借り物の氣勢をあげるのでなく、しつかりと自分の生活に土臺をおいた方面からの地道な活動を婦人たちが初めやうと力のはけ口にあせつてゐたのだ、と思はず

にゐられません。
　たゞ殘念なことに遞信局の取扱ひが「婦人と家庭」を婦人運動の附錄として併送することを許しませんので、引續いてよんで下さらうといふお方はどうぞ會員になつて下さい。

◆金澤へ今度は少しゆつくりした時間をもつて行つて來ました。それ〳〵の個性をもち違つた生活様式に生きてゐられるかた〴〵と親しくなつてゆくにつれて、でもやつぱり婦人といふ共通した生活に繋りある者同志には深い根底に同じ感情があり同じやうな方向への求むる心が切々と動いてゐる！　と思はずにゐられませんでした。
　青森にも豊橋にも埼玉にも大阪にも廣島にも福岡にも朝鮮にも――最も手もとの東京にも、餘裕ある時間をもつてゆつくりと會ひたい友だちが澤山にあります。それらの人たちをなつかしく心にえがきました。

◆いゝ秋になりました。思ひ出したやうに空をみあげたり、花を活けたりして心持の上での餘裕を愉しんでゐるところへ・こないだは官吏の俸給一割天引きのお達しで、隨分めんくらつたでありませんか。
　あゝいふことは單に官吏だけの減俸に終るものでは決してなく、それをいゝ口實にして一般被雇階級の收入減を招來させる恐るべき導火線作用をなすものであることは云ふまでもないのでした。官吏といふ、最もおどしの利く弱い側から手をつけた政府側の策戰が、案外手ごわくてさすがに撤回したなんて、全くりういんの下る思ひがします。

◆本誌を、もつと私らしい色どりにしたいと前號に書きましてから、涙ぐましいお手紙を澤山の方から頂きました、厚くお禮を申上げます。
　どうも私は忙しすぎていつまでもいゝ雜誌が出來ないで恥しく思ひますが、出來るだけやつてみたいと心がけてゐます。あまりに文字通りの貧乏ひま無しで、いゝプランをたてるために相談をするひまもない、たとへいゝ案が立つても中々それを實現されない憾みに齒を喰ひしばるばかりです。それにはやつぱり讀者をもう少し殖やして頂いて基礎を固めるより外ありません。何卒お友だちに本誌のあることを紹介して下さい。そして讀者になつて貰つて下さい。そして「職業婦人の家」の募金運動は豫定額に未だ缺けるのでなほ續けてをりますからもう一息ふんばつして下さい。
　一週間に一度おヤツ代を儉約して寄附して下さる方もあり、仕立賃を惜しんで廻して下さる方もあり新刊の雜誌を買ふ金子を寄附したいからと云つて事務所へ讀みに來て下さるSさんの如き方もあり感激にたえません。

「婦人運動」を
育ぐむために
愛讀者倍加！　を。
わが日本の婦人運動の
ネグラとして
「職業婦人の家」の建設！　へ。
協力せよ助けよ。

昭和四年九月卅日納本
同　年十月一日發行（每月一回一日發行）

誌代は全て前納にして下さい、送金は振替が一番便利です、誌代領收の證に雜誌を發送す

郵稅一錢	
前納誌代	一部……25錢
	半年…1,40圓
	一年…2,80圓

發行所　東京市牛込區市ケ谷本村町四　職業婦人社　振替東京六四一六〇番
發行及印刷人　奥むめお

大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可
昭和四年十月二十八日印刷納本
昭和四年十一月一日發行（毎月一回・一日發行）

婦人運動　第七卷第九號　定價二十五錢

婦人運動

大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）　昭和四年十一月二十八日印刷納本　同四年十二月一日發行　第七卷第十號

12月號

職業婦人社發行

第7卷　第10號

●黒い女とは!!
それはどんな?
それはどこに?

黒い女

アナーキズムの旗の下に!

高群逸枝著

□定價一圓
□送代十錢

●極左中の極左、女流中の女流――世を擧げてマルキシズム政治主義の流行を見るとき、獨りアナーキズムの陣營にあつて、プロレタリア・ネオ・ロマンチシズムのために萬丈の氣を吐く著者の第一小説集である。

階級受難、女性受難、この二重の重壓下に、更らに醜怪なる强權主義者の間にあつて彼女はいかに鬪つたか!!

東京芝區新櫻田十九　解放社　振替東京・三六九四四